 **マスターズ広島**

広島大学マスターズ広島

会報「創設 10 周年記念特集号」

2010～2020 年



2020 年 11 月

# 目 次

1. 広島大学マスターズ広島創設 10 周年を記念して	
1.1 代表幹事挨拶	代表幹事：植木研介・・・ 1
1.2 創立 10 周年によせて	
祝辞	広島大学長：越智光夫・・・ 2
祝 創設 10 周年	元広島大学長：牟田泰三・・・ 3
広島大学マスターズ広島の創設 10 周年を祝して	
広島大学マスターズ 代表幹事：渡部和彦・・・	4
創立 10 周年、おめでとうございます	
広島大学マスターズ 初代代表幹事：金田 晋・・・	5
広島大学マスターズ広島 創設 10 周年記念に寄せて	
広島大学平和センター長：川野徳幸・・・・・・・・	6
創設 10 周年を祝して	広島大学校友会 事務局・・・ 7
創立 10 周年を祝して	
NHK 文化センター 広島総支社長：佐藤泰子・・・	8
2. 広島大学マスターズ広島の歩み	
2-1. 10 年間を振り返って・・・・・・・・	9
2-2. 広島大学への教育支援・・・・・・・・	15
2-2-1. 平和科目および留学生予備教育・・・・・・・・	15
平和科目担当（一覧）・・・・・・・・	21
日韓理工系留学生教育（一覧）・・・・・・・・	26
2-2-2. 大学院共通科目「学問と社会」・・・・・・・・	27
大学院共通授業科目「学問と社会」（一覧）・・・	33
「学問と社会」受講生による感想・・・・・・・・	34
2-2-3. 大学院授業科目「健康生活科学」・・・・・・・・	37
大学院共通科目「健康生活科学」（一覧）・・・	40

2-3. 生涯教育支援および若年層教育支援	41
NHK 文化センター・TSS 文化大学講師（一覧）	43
2-4. 企画事業	44
2-4-1. 例会	45
例会（一覧）	55
2-4-2. ミニ懇話会	56
ミニ懇話会（一覧）	60
2-5. 広報活動	61
会報（一覧）	64
3. 今後に向けて	
さらなる発展を目指して	67
編集後記	

1. 広島大学マスターズ広島  
創設 10 周年を記念して

## 1-1. 代表幹事挨拶

### ご挨拶

広島大学マスターズ広島 代表幹事 植木 研介

2010年8月7日(土)に当時の浅原利正広島大学長をお迎えし東千田において設立総会を開催してより、10年の歳月を閲して、創設10周年記念特集号を発行するに至りました。88名の会員で発足、ここ数年の会員は120名ばかりのところを着実に推移しております。しかしながら今年は新型コロナウイルス感染症のため思わぬ事態に立ち至り、新入会員募集の活動もままならず、会員数の確定にも至っておりません。2020年8月29日に創設10周年記念の総会を持ち、総会に先立って、われわれ広島大学マスターズ広島にとって大切な活動の一つである「平和科目」の講義を巡って、広島市内の高等学校にも参加の声をかけてパネラーとなってもらい、平和を考えるシンポジウム開催の計画も5月初旬まではその準備にいそしんでおりましたが、中止やむなしとの結論にいたりしました。かなり具体的な姿になっており基町高等学校の校長さんからパネラーだけでなくフロアからの参加の提案もいただいております。ウイルスとの付き合い方が見えてきたら、将来こうしたシンポジウムも意義あることだと考えております。

新型コロナウイルスの感染を防ぐために、広島大学マスターズ広島の活動の中心組織である幹事会も創設から50回目の会議を2月8日(土)に開き、記念行事について計画を立案したのを最後に、第51回の幹事会以降メール審議の形で、次々に行事の内容を詰めておりましたが中止となり、結局、この会報「創設10周年記念特集号」の発行のみが残りました。煩雑なメール審議を乗り越えてここまで来られたのは、渡邊敏正幹事と圓山裕幹事のご尽力です。深く感謝いたします。

設立準備会の多くは東千田総合校舎にある薄暗い窓のない共同教員室で持たれました。明るい希望をもって集まった元広大の教職員は、4年半前に先行した広大マスターズの代表幹事である金田晋先生と、準備万端で司会をされる松水征夫先生を中心に、渡邊一雄、井上研二、井上純、鈴木盛久の諸氏と私でした。思い返してみると金田先生との関係の深い方々で、松水先生は広大マスターズの協力会員であり、監事になっておられました。金田先生、渡邊先生、井上先生はかつて同じ総合科学部で勤めておられます。鈴木君は小学校から高校まで同級生なので話をしてみると金田先生の奥様が彼と同じ教育学部に属され、彼の大学時代の指導教官と金田先生には交流があったとのこと。金田先生と私の接点は何だろうと思案すれば、牟田泰三先生が学長の頃、わたくしは学長補佐という名目で大学本部の会議に侍ることが多くそこで金田先生と同席したことしか思い出せないのです。このあたりに広大マスターズ広島での私の楽しくも長いボランティア活動の源があるという裏話で、ご挨拶に代えさせていただきます。

## 1-2. 創立 10 周年によせて

### 祝辞

広島大学長 越智 光夫

本年、創設 10 周年を迎えられる広島大学マスターズ広島の皆様方に、広島大学長としてお祝いを申し上げますとともに、長きにわたって広島大学を支えていただいておりますことに心より感謝申し上げます。

広島大学マスターズ広島は、平成 22 年（2010）年 8 月に、広島市在住の元広島大学教職員を中心に設立され、会員相互の交流と親睦、さらには地域社会及び広島大学への貢献を目的として、様々な活動を展開しております。

ご承知のように、広島大学は「平和を希求する精神」を理念の一つに掲げており、世界に平和のメッセージを発信し続けていくことが本学の使命であります。そのための取組の一環として、平成 23 年度（2011 年度）からは、教養教育の平和科目を全学の選択必修科目として提供し、戦争や紛争、核廃絶、貧困、環境、宗教など多様な観点から平和について学生が自ら考え、理解を深めるよう促しております。

広島大学マスターズ広島の皆様方には、その豊富な知識と貴重なご経験を生かして、平和科目のうち「平和と人間」を、同じく元広島大学教職員で組織された広島大学マスターズ（東広島在住の元広島大学教職員を中心とした組織）の皆様とともにご担当いただいています。さらに、平和科目以外にも、日韓理工系学部留学生向け予備教育、大学院共通授業科目など多くの授業の講師をお務めいただくなど、学部・大学院教育の一翼を担っていただいておりますことに、改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

本年 4 月に、人間社会科学研究科と先進理工系科学研究科が新たにスタートし、昨年度の統合生命科学研究科と医系科学研究科の設置と合わせて、これからの広島大学発展の基盤となる大学院教育の体制が整いました。学際的あるいは分野融合的な研究と教育が自在に展開するキャンパスで、幅広い視野をもち、社会の様々な分野で活躍する、高度な能力と専門性を身につけた人材を育成してまいります。広島大学が「100 年後にも世界で光り輝く大学」となれるよう、今後も広島大学の心強いサポーターとして、皆様のお力添えを賜りますよう切にお願い申し上げます。

終わりになりますが、広島大学マスターズ広島が、今後ますます活躍の場を広げられ、知の地域貢献集団として邁進されますことを心より祈念しております。

## 祝 創設 10 周年

広島リカレント学院長（元広島大学長） 牟田 泰三

「広島大学マスターズ広島」の創設 10 周年お目出度うございます。このあいだ出来たと思っていたらもう 10 年とは、本当に月日の経つのは早いものです。

お祝いのついでに、ちょうどいい機会ですから、「広島リカレント学院」設立の経緯について述べさせていただきます。

いまから 10 年ほど前のことです。私は体調を崩したため福山大学学長を退任して休養しようとしていました。そんなある日、会議のために東京出張しようとしていて、広島空港でテレビ新広島（TSS）の当時の社長永野正雄氏にばったり出会うと、永野氏から「TSS 文化大学の学長をやってくれないか」とのこと。

TSS 文化大学というのは、テレビ新広島が将来の高齢化社会を先取りして 1996 年に設立した社会人教育の学園で、毎週火曜日の午前中に一般教養の講義、午後にパソコンとか書道や健康体操のような専門講座を行っていました。私は 3 代目の学長として TSS 文化大学の舵取りを引き受けることにしました。

この TSS 文化大学が、都合により、2019 年 3 月をもって閉校となりました。在学中の学生の皆さんの中には、それでもまだ勉学を続けたいという方々も多く、学長であった私も何とか継続の道はないものかと思案していたところ、総合広告社で運営を引き継いで頂けることになりました。校舎は広島大学千田キャンパスを活用することが出来るようになり、名称も「広島リカレント学院」と定めて 2019 年 10 月 9 日に新たに発足することが出来ました。設立に到るまでには、多くの方々のお力添えを頂き、心から感謝しております。特に、広大マスターズや広大マスターズ広島の先生方の中には、午前の教養講座の講義を担当していただいた方も多く、充実したすぐれた講義を提供することが出来ました。改めて御礼申し上げます。

もっとも、新型コロナウイルスという思いがけない強敵に見舞われ、現在休講の羽目に陥っています。しかし、どんな試練でも乗り越えて、また復活できるものと確信しております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 広島大学マスターズ広島の創立 10 周年を祝して

広島大学マスターズ 代表幹事 渡部 和彦

広島大学マスターズ広島が、この度創立 10 周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。広島大学マスターズを代表して、心からお祝い申し上げます。私共、広島大学マスターズは、広島大学マスターズ広島と同様、会員同士の交流活動、広島大学との連携・協力、地域貢献活動等を行っています。我々は、かねてより、広島との組織的な交流活動を願っていましたが、地理的距離がいささか妨げになっていた感が致します。

さて、医系学部の広島市への移転に伴う平和科目担当に加え、医系大学院生の共通基礎科目の担当等、広島大学との連携・協力等々、重要な事業の展開に敬意を表します。個人的には、大学院の講義担当に係る検討会の一員として、当初より準備委員会に参加させていただき、組織編制・名称等、大学への提出書類づくりに、広島の先生方と共にご相談したことが思い出されます。今後の更なる充実・発展を心から期待いたしております。

さて、我が国は、今まさにコロナ禍の真ただ中にいます。最近、緊急事態宣言が解かれたとは言え、第 2、第 3 の波が押し寄せるのではと、国民の多くが危惧しています。広島大学は閉鎖が続き、学生は、対面式ではなく、「オンライン」で授業を受けている現状です。「平和科目」の講義も、不慣れなオンラインとのことです。世界規模で、様々なシステムが、「アフター・コロナ」社会で激変するといわれます。我々「両・マスターズ」も、これまでとは、異なる方法や内容で大学・地域への貢献が期待されるかもしれません。これまでの「両・マスターズ」間の交流行事としては、代表幹事が総会に招かれ、それぞれの現状紹介が主たる内容でしたが、今後さらに期待したいことは、「両・マスターズ」会員同士の交流です。昨年度、広大マスターズでは、海外研修：「第 2 次大戦の戦跡巡りとフィリピン表敬訪問」を企画したところ、広大マスターズ広島から、石丸紀興先生が参加されました。おかげさまで、交流が実現し実り多い研修になりました。今後とも、「地理的距離」を埋める努力をと願っています。結びに、広島大学マスターズ広島が、10 周年の節目を機に、更なるご発展と共に、会員の皆様方のご健勝を心より祈念申し上げます。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 創立 10 周年、おめでとうございます

広島大学マスターズ 初代表幹事 金田 晋

広大マスターズ広島の創立 10 周年、おめでとうございます。

1995 年、広島大学は東広島市に全学（医歯薬学部を除く）統合移転しました。そのことは反面、広島市に広島大学の学生がいなくなるということであり、広島市民には言い知れぬ虚脱感があり、その虚脱感が年々増していったはずですが、そこを埋め合わせるということが、マスターズ広島にはあったはずですが、大変だったと思います。

その 4 年前（2006 年）、私ども東広島在住の名誉教授、教職員（非常勤も含めて）OB は広島大学マスターズを発足させました。当時、東広島市は市制施行（1974 年）30 年、「大学のある市（まち）」の文化力をまだ示せていませんでした。大学と市は市民レベルの血の通った交流を果たせていませんでした。町づくりの力になろう、それが私どもの気持ちでした。

設立の趣旨は牟田泰三学長（当時）時代の大学役員会で支持されました。当時広大も校友会の創設（2007 年）に懸命な時期で、その方面からも全面的なバックアップをいただきました。因みに、既設の同窓会は別にして、当会は校友会団体会員の第 1 号でした。

「広大マスターズ」の名称は、ゴルフの「マスターズ」を思いつけました。飛距離こそ現役時代に比べると落ちたかもしれないが、ショットの正確さでは現役に負けないぞという気持ち、しかも大学の制度で言えば、学部の上の大学院（マスターコース）、という気概をこめてつけました。

東広島市はさまざまな便宜を図ってくれました。私たちはいろいろなレベルの市民講座、出前講座を自主的に計画実施してきました。大学へは新入の学生のための教養科目（「平和科目」）を提供し、留学生教育にも関わってきました。2011 年には広島大学学長表彰（浅原利正学長（当時））を受けました。

その頃、私は広大マスターズの代表幹事（初代）でしたが、大学では国立大学法人の監事でした。浅原学長（当時）からある日、同趣旨の組織を広島市にも作れないか、という相談を受けました。東千田、霞の両地区にもキャンパスをもつ広島市に同様の実行組織が必要と考えられたのでしょう。その旨を貴会の創設時の皆さまに伝えたところ、前向きな返事がありました。以上が広大マスターズ広島誕生の経緯です。その後の展開は本誌の皆さまの記述に譲ります。

両組織のおかれている状況はちがいます。ロカリティを重視した結果、別の組織としました。それでもこれまで一緒に広島大学の教養教育、留学生教育をやってきました。これからも緊密な関係を保ちながら、それぞれに、真の大学町づくりを目指して OB の力で貢献してゆきたいと思っています。

## 広島大学マスターズ広島 創設 10 周年記念に寄せて

広島大学平和センター長 川野 徳幸

広島大学マスターズ広島におかれましては、この度、創設 10 周年をお迎えになり、ここにお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

広島大学マスターズ広島の先生方には、広島大学全学選択必修科目「平和科目」の設立、そしてその後のご担当と大変お世話になっております。思い返せば、2007 年（平成 19 年）に「平和に関する教育検討 WG」が設置され、平和教育の全学必修化の検討が始まりました。その後、2011 年（平成 23 年度）の開設まで、学内で様々な議論が展開されました。そこでは、肯定的なものばかりではなく、批判的なご意見も多く頂戴しました。たとえば、イデオロギーの一時的な押しつけにならないか、専門教育へのしわ寄せにならないか、内容の偏在があるのではないか、そもそも、「平和」は学ぶべきものなのか、といったご意見がそれです。こういった学内の意見は、案外、根強いものがあり、その後、引き続き、丁寧な検討を進めると共に、学生に対するアンケートを実施し、ようやく、2011 年に平和科目開設へと至りました。その間、マスターズの先生方には、終始一貫、ご支援・ご尽力をいただきました。ご自身が被爆者である先生、戦前に生を受け、あるいは戦争直後の「戦後」を肌で知る先生方の「戦争の悲惨さを直視し、核廃絶を含む軍縮を展望する視点を育む必要がある」というご意見は、私たち若手の教職員にとって大きな励みとなりました。そして、平和科目そのものの創設の後押しともなりました。

平成 19 年度「平和に関する教育検討ワーキング」には、植木研介先生（当時、文学研究科教授、現広島大学マスターズ広島・幹事）、その後は、松田治男先生、金田晋先生といった広島大学マスターズの先生方に大変お世話になりました。平成 23 年度からは、マスターズ幹事の先生には、平和科目ワーキング委員にご就任いただき、平和科目の内容や成績評価等のガイドライン、今後の平和科目の見直しなど、引き続きご検討いただいております。また、開設当初より、「平和と人間 C」と「平和と人間 D」もご担当いただき、「現場」をご担当いただいております。そもそも「平和」なる曖昧模糊とした理念・概念は、長い経験と豊富な知見によって形成されるものです。豊富な人生経験に基づく先生方の「平和観」は、必ずや若い学生諸子に届き、かつ響くものと確信しています。先生方には、引き続き、広島大学学生のため、豊かな経験値に基づく「平和」を語っていただき、「平和を考える場」をご提供いただければと切に願っております。先生方の思い、願う「平和」は、きっと次世代を担う学生へと継承されるものと信じております。引き続き、先生方のご協力を仰ぐ所以です。

先生方のご健勝と益々のご活躍を祈念しております。

## 創設 10 周年を祝して

広島大学校友会 事務局

広島大学は、昭和 24 年の創立であり、令和 6 年(2024 年)には創立 75 周年を迎えます。本学の創立時に広島文理科大学や高等師範学校などがその母体となったことはよく知られておりますが、その源流は明治 7 年(1874 年)創立の白島学校まで遡ることができます。広島大学の創立年である昭和 24 年から明治 7 年まで遡ればやはり 75 年であることから、令和 6 年(2024 年)には 75 年+75 年で、明治 7 年の白島学校創立からは 150 年という節目の年に当たります。

創立 75 周年に向け、広島大学校友会では、校友会への加入を一層呼びかけるとともに、会員への情報発信や各同窓会・団体との連携・交流促進に努め、同窓生のネットワーク強化を進めております。「広島大学マスターズ広島」様には、校友会の登録団体として日頃から力強いご支援を賜り、心より感謝申し上げます。おかげをもちまして、ホームカミングデーは今年第 14 回目を迎えます。また、校友会では「ドリームチャレンジ賞」、「課外活動援助金」、「就活支援ツアー」など学生生活を支援する様々な事業を推進しております。これらの事業を通じて、学生には在学中から校友会に親しみ、卒業して広島大学を離れても校友会を軸に母校との繋がりを実感し続けてもらえるよう、努力していきたいと考えております。「広島大学マスターズ広島」様には、校友会からご案内申し上げます各種行事に積極的にご参加いただきますとともに、もし可能であれば校友会の事業実施にあたり、その豊富な知識・経験・人脈等を活かしてご協力いただければ幸甚に存じます。

なお、広島大学は、創立 75 周年に向け、平成 29 年(2017 年)に「広島大学が躍動し広島の地を活性化させる基金（広島大学 75+75 周年に向けて）」を設立し、寄附募集を開始しました。この基金は、産官学民連携によるイノベーション拠点の構築を目指すとともに、これまで行ってきた学生支援、研究支援、国際交流、社会貢献及び教育研究環境整備の各事業の充実を図るものです。校友会事務局は、基金担当部署である広島大学基金室と連携しながら、同窓生のみならず、地域一般に広島大学の応援団を広げ、繋がり、支援し、相互で活かし合うネットワークを築いて参る所存です。

4 年後、令和 6 年(2024 年)の創立 75 周年には、校友会をはじめとする広島大学の応援団が、周年事業を力強く支え、盛り上げていきたいと願っています。引き続きご指導賜りますようお願いいたします。

## 創立 10 周年を祝して

NHK 文化センター 広島総支社長 佐藤 泰子

広島大学マスターズ広島が創立 10 周年を迎えられ、記念誌を発行されるにあたり心よりお祝いを申し上げます。

平成 22 年の創立以来、大学と地域の連携を図りながら様々な活動を展開され、地域や市民の皆様に貢献されていることに、生涯学習という同じカテゴリーに身を置いている者として、目標とするところでございます。

NHK 文化センター広島教室にも、これまでご所属の多くの先生方にご出講いただき、大学以外でも、広島大学の質の高い講義を受講できる生涯学習の場として、会員の皆様に広くご利用いただいております。

コロナウイルス感染拡大の影響で、当センターも長い期間休業しておりました。ようやく、「新しい生活様式」における「感染対策・三つの基本」を踏まえて、安心・安全にご受講いただくための対策を取れる講座から開講しておりますが、未だに開講に至っていない講座も少なくありません。

カルチャーセンターでも、教室内での講師と受講生との交流、受講者同士のふれあいこそ価値があってお通いいただけるものと考えておりますが、その触れ合いこそが感染のリスクとなってしまった今、新しい生活様式に対応できる形に、しなやかに対応し、どのような環境の下であっても、文化・芸術を通して、こころの豊かさをお届けしたい。そういう思いは広島マスターズ精神と同じ志の元にあると信じています。

「見えない明日」が目前にある今、継続していく事がどんなに難しいことかと思われ、この度、広島大学マスターズ広島が創立10周年を迎えられたことは、ご所属の先生方のこれまでのご苦勞とご功績に敬意を表すとともに、この場を借りて、改めて感謝を申し上げたいと存じます。

これからも変わらず、市民の皆様に、教育・文化・芸術を通じて、新しい時代を、心豊かに生きる活動を支えて行かれますよう、心からのエールを贈るとともに、広島大学マスターズ広島のみならずのご発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 2. 広島大学マスターズ広島の歩み

## 2-1. 10年を振り返って

本会の設立経緯と立ち位置から活動状況、運営体制など 10年間の活動全般を俯瞰します。

### 10年間の活動を振り返って

広島大学マスターズ広島 代表幹事 植木 研介

広大マスターズ広島は二つの目的を掲げて創設された。第一の目的は相互の交流と親睦であり、第二の目的はこれを通じた地域社会及び広島大学への貢献である。

このうち相互の交流と親睦は春と秋との年二回の例会として定着している。大学天文台訪問、己斐断層探訪、頼山陽記念館見学、御手洗遠征などは参加者も多く楽しい思い出を残している。蘭島閣美術館は蒲刈島にこんな文化交流の地点があったのかと深い感動を与えてくれた。参加者は4人だったが松江への一泊旅行は余程楽しかったのであろう参加できなかった私も羨むほどの例会となった。

大学への貢献では実績を残していると評価している。2010年の設立総会の翌日だったと記憶するが金田参与から東広島における「平和科目」計画案がメールで届いた。大学は翌年の4月から「平和科目」全学必修2単位、を実施すること決めていた。浅原学長が2008年の新入生に課せられたモニュメント見学レポートがその端緒となっている。2008年3月までの「平和教育を考える」布川委員会には定年直前の私も出席。私はそれ以前から総合科学部で舟橋、田村、布川と連なるヒロシマを考える講義に1コマ、文学部で学ぶ留学生にヒロシマで学ぶ意義を1コマ語っていた。こうした事情からマスターズ広島での授業計画、シラバスの整備が急がれ授業担当者には私の既知の方々が主となる案が渡邊一雄代表幹事の下でまとめられた。コロナ禍の中でも「平和と人間」C・Dの講義はオンライン講義という新しい方式で本年も継続された。

日韓共同理工系学部留学生予備教育も実績を残した。

2014年の暮れ頃から東千田キャンパス知的人材センターの話が起こり、松水幹事の下で長い折衝が大学側と続き社会連携講座の話となり教育研究プロジェクトと結びつき大学院での教養講座へと話は展開していった。2016年3月に「未来創生センター」が完成すると、こうした苦労がプロジェクトルーム(4-4)とミーティングルーム(4-7)の使用許可の形で結実、2017年4月には大学院用共通講義として「学問と社会」と「健康生活科学」が生まれた。最後の科目が大学側の強い希望で霞キャンパス向けとなったのは驚きであったが、両科目は今も健在である。

地域社会への貢献という面では会員が個人としては色々な形で貢献しておられるが、広大マスターズ広島の広島市との関係は広大マスターズと東広島市とのそれと大きく異なっており、これからの課題となっている。

## 代表幹事からのご挨拶

広島大学マスターズ広島 元代表幹事 渡邊 一雄

私たちは、教育・研究、学会・社会貢献、研究費調達などの義務から自由になり、ゆとりを持って大学や社会を見つめることができる立場になりました。本会は、第一は会員の交流と親睦、第二はこれを通じた地域社会及び広島大学への貢献を目的に設立されました。大学が大きな変革を迫られる中、われわれ元教職員の知識、経験が、大学コミュニティーの一角として生かせるなら嬉しいことです。これには柔軟な組織であることが大切で、交流と親睦を第一義とするゆえんです。

いま大学も社会も急速な情報化、グローバル化の中で未曾有の厳しい状況に置かれたと認識しています。とりわけ市場原理のもとでの過度の映像化、デジタル化は学問の重みを奪うのではないか、ヒトという生物が作る社会はこれに適応する力をなお保持しているのか、私にはこの疑問が拭えません。

「広島に文化講座はいくらもある」、「いまさら仲良しクラブでもなかりろう」、「現役から煙たがられたくない」、—こうした影の声といつも同居です。しかしいま現役をとり巻く状況は私達の頃と比較にならぬほど厳しく、教育・研究の源泉である「ゆとり」がすっかり奪われつつあります。また、各種の市民講座も20年以上を経て、かつての活力を失い気味とも聞きます。こうした中でわれわれにまだ何かできるのではないか、協力して努力する方法はないか、という思いが私を勇気づけます。

会員の募集は広島市在住者からご案内から始めましたが手順上のことです（それでも実に512名）。広島大学に帰属意識を持たれるより多くの方々のご参加を心から歓迎するものです。そのためにも「信頼できる会」を目指す努力が大事です。いま周辺地域への拡大、漏れや物故者の処理などが課題です。

運営は、当面は幹事7名に加えて、随時、当該の専門分野の「協力会員」のご助力を得て機動的に行う考えです。結果は会報やウェブでお知らせし、年に一度、「総会に懸ける」ことで闊達なご意見、ご修正を期待するものです。

4年前、広島大学本部所在地、東広島市に在住者による「広島大学マスターズ」が設立され、引き締まった活動を示しています。本会は大規模都市圏をカバーするが故の「メタボな弟分」に墮することがないように戒めながら、よりよい協力を目指します。弟分を温かく見守って下さると幸甚です。

Home-Page 「例会などの案内と報告」(2010年8月7日)  
「設立総会の開催」から(転載)

「広島大学マスターズ広島」の設立総会

平成22年8月7日(土) 広島大学東千田キャンパス 東千田総合校舎



代表幹事に就任された渡邊一雄先生



来賓として挨拶中の浅原利正学長



設立総会の会場風景

懇親会：広島アンデルセン



代表幹事就任の挨拶を述べられる渡邊先生



懇親会の会場風景



## 創立 10 周年によせて

広島大学マスタース広島 前代表幹事 井上 研二

今年 8 月に広島大学マスタース広島は創立 10 周年を迎えるはずだった。しかし新型コロナウイルス（以下「コロナ」）のパンデミックに見舞われ、10 周年記念シンポジウム、総会および懇親会をすべて中止するという想定外の事態となった。中国・武漢で発生した「コロナ」は瞬く間に全世界に波及し、最も多いアメリカをはじめ一千万を超える感染者、数十万に上る死者を出し、とどまるところを知らない。幸いわが国は欧米諸国に比べれば、感染者、死者ともかなり少ないが、外出自粛、休業、休校要請によって都会を中心にこれまでの喧騒が一時別世界のように静まり返った。この結果、人的被害だけでなく、経済的ダメージが甚大である。大学はじめ幼稚園に至るまで教育機関は休校、休園を余儀なくされ、次第にオンラインによる講義、授業に切り替わったり、9 月入学、9 月新学期が再び検討されもした。東京オリンピック・パラリンピックも 1 年延期され、高校野球は春の選抜に続き夏の甲子園も中止となったばかりでなく、全国高校総体も中止となった。プロ野球やサッカーなども開幕が大幅にずれ込んだ。こうしたスポーツの分野だけでなく、映画、コンサート、図書館、美術館などあらゆる文化・娯楽施設も閉鎖され、その後さまざまな感染防止策を講じた末徐々に再開されつつあるが、コロナ禍はやむなく休業に追い込まれた宿泊施設、飲食店をはじめ多くの経済界に甚大なダメージをもたらし、リーマン・ショックに匹敵する状況を生み出している。いつこのコロナ禍が終息し、世界が再び以前の姿を取り戻せるのであろうか。たとえば 14 世紀に大流行したペストは宗教改革やルネサンスを生み出したように「コロナ」後はわが国および全世界に大変革をもたらすきっかけになりそうな予感がする。しばらくの間「コロナ」と共存して生きていかなければならないのであろう。

わが会はこの 10 年間に 120 名ほどの会員となり、十数名の幹事によって運営され、会員間の親睦を深めるために、年に 2 回、春と秋に例会を開催するとともに、ミニ懇話会も昨年からはじめた。今年 1 月に 2 回目を実施した。また広島大学の教育支援や NHK 文化センター、広島リカレント学院の講師派遣などで地域貢献にも参画してきている。残念ながら 10 周年記念事業はこの記念誌発行だけとなったが、「コロナ」の終息と共に、再びわが会の活動が再開される日を切に待ち望む今日この頃である。

## 広島大学マスターズ広島の 10 周年に寄せて

広島大学マスターズ広島 前副代表幹事 松水 征夫

「広島大学マスターズ広島」が発足 10 周年ということですが、われわれの組織の先輩である東広島の「広島大学マスターズ」が創設された平成 18 年には、私はまだ現役の教員でしたが、広島大学において地域連携センター長を務めていたことで、私の前任のセンター長を務めておられた安藤忠男先生（「広島大学マスターズ」の初代副代表幹事）から、「広島大学マスターズ」が地域との交流活動を始めるので、協力会員として入会するように勧誘され、2 年間ほど会計の監査を担当させていただきました。

東広島の「広島大学マスターズ」の創設にかかわったことで、当時の状況を承知していることで、私が広島大学を定年退職して広島経済大学に再就職しているときに、東広島の「広島大学マスターズ」の初代表幹事を務められていた金田晋先生から、広島市でもマスターズを立ち上げてほしいとの要請があり、広島経済大学の非常勤講師として来学されていた渡邊一雄先生（初代表幹事に就任されました）と一緒に、私の研究室に來られ、依頼を受けたことで、広島マスターズの立ち上げにも携わることになり、私は初代の副代表幹事を務めることになりました。

金田先生は、広島マスターズも東広島のマスターズと同様に地域の公民館活動に協力してはとのことで、金田先生が広島市の文化財団の役員をしておられた関係で、同財団で懇意にしておられた広島市現代美術館の副館長の紹介により、広島市の生涯学習の企画・運営を担当されている「広島市ひと・まちネットワーク」の事務局を訪問し、金田先生、渡邊先生と一緒に市民活動推進部長に面会し、われわれが広島市の生涯学習への協力をさせていただきたい旨の申し出をさせていただきました。しかしながら広島市の方では、公民館活動など生涯学習が活発化しており、特に広島大学の方に協力をお願いしなければならない状況にはないとのことでした。広島市では大学が多く、東広島市とは事情が異なることをあらためて認識させられることになりました。そうした環境を鑑み、広島大学マスターズ広島では、広島大学から協力依頼のあった教養教育の「平和科目」の創設に協力する事業から始めることになりました。「平和科目」の開講は、現在も続けられており、担当いただいています会員の皆様に感謝しています。

## 広島大学マスターズ広島の運営 ―会計の概要―

広島大学マスターズ広島 会計担当幹事 桑原 勝己

広島大学東広島地区運営支援部東千田地区支援室を最後に平成 27 年 3 月に定年退職になり、引き続き契約職員として 5 年間、再雇用で広島大学にお世話になりました。

定年退職後、先輩職員の方の紹介でマスターズ広島に入会して、平成 28 年 4 月から会計幹事を担当しています。長年、広島大学に勤務し、また学内異動で多数の部局で事務業務を経験していたこともあり、会員名簿の先生・職員の方々のお名前を拝見した時は懐かしく思いました。

本会は、地域社会及び広島大学のニーズに対応した活動に協力し、広島大学の行う社会連携等の各種事業を支援することを目的として、積極的に活動しています。

マスターズ広島の運営は、「会則」で定められており、正会員として入会時に出資していただく「出資金」（一口 1 万円）及び正会員として本会を通じて行われた事業について、そこで得た収入の一部の「拠出金」（事業によって得た収入額から税金その他の必要経費を控除した額の 10%）を原資として行われています。

マスターズ広島は平成 22 年 8 月 7 日に設立して、設立時の「出資金」を基に運営をスタートし、その後、新たに入会していただく方からの「出資金」及び事業により得た収入額の一部の「拠出金」を収入源としています。

支出に関しては、本会が行う事業の円滑な実施のための必要経費に充当し、適切に管理運営されています。主な支出費目としては、1) 通信費（本会が実施する各事業の案内等の郵送料）、2) 印刷費（事業案内、会報及び封筒等の印刷代）、3) 消耗品費（事務用品）等があり、毎会計年度、監査人による収支決算の監査を受けています。ここ数年は、収支のバランスは保たれているように感じています。

今後、入会者が増え、本会が目的とする各種事業が円滑に実施され、会員相互の親睦・交流等がさらに深まることを願っています。

## 2-2. 広島大学への教育支援

本会設立の大きな目的として教育支援があり、その中でのポイントは広島大学の教育支援です。現状で具体的な事例を挙げれば、平和科目、韓国留学生予備教育、大学院共通授業科目「学問と社会」および医歯科学専攻開設科目「健康生活科学」などの講義担当です。これらの担当に至る経緯、科目開設の意義や目的、講義実施状況などを記述して、広島大学の教育に対する本会のこれまでの関わりを示します。

### 2-2-1. 平和科目および留学生予備教育

News Letter 第3号（2011年1月20日発行）から転載

広島大学から依頼のあった「平和科目」開講要領について

広島大学マスタース広島 元代表幹事 渡邊 一雄

会報の第2号でご報告しました広島大学における教養教育の改革の一環として平成23年度から開講されることになりました一般教育科目「平和科目」につきまして、本会に協力依頼のあった科目の平成23年度における開講要領が決まりましたのでご報告します。

本会の会員により提供される授業科目「平和と人間 C」は、前期に東千田キャンパスで水曜日の夜間授業時間帯1・2時限（18：00～19：30）に、「平和と人間 D」は、後期に東千田キャンパスで月曜日の夜間授業時間帯1・2時限（18：00～19：30）に開講されることになりました。両科目の授業内容の概略、授業計画は、次の通りです。

【授業科目名】「平和と人間 C ー広島で学ぶ（原爆とは何だったか）」

（授業内容の概略）

この授業では、原爆に焦点を置き、担当教員の被爆体験を中心に据え、人間にとって原爆とは何であったかを学ぶ。われわれが「人間」として等しく希求する「平和」を脅かす最たるものは戦争である。本講では、戦争を①その原因、誘因、②その実際、実態、③それがもたらすもの、に分け、それぞれを「事実として直視すること」を基本的な視点とする。各担当者は専門分野、経験から三者のいずれかに重点を置き、基本視点に則って講述する。

本講の目的は、受講する学生が人間としての自らを豊かにしつつ、その大前提として、戦争を回避する論理を構築するに資することにある。

（当初の授業計画と各年度の担当者を次頁の一覧表で示します。）

【授業科目名】「平和と人間 D ー広島から未来に向けて」

（授業内容の概略）

われわれが「人間」として等しく希求する「平和」を脅かす最たるものは戦争である。この授業では、戦争および原爆が人間および文化にもたらす事実への直視を出発点に、一

つの究極兵器である原爆の基礎技術となった原子核物理学が技術として人類に何をもたらすかに考えを進める。

本講の目的は、受講する学生に、戦争、ことに兵器開発の歴史を理解させ、戦争を回避する論理を自ら構築しながら人類の未来にとって科学がいかなる働きをするか考えさせることにある。

時間的な関係で、少ない情報から幹事会の方で検討を行い、平成 23 年度は上記の会員の方にお引き受けいただきました。他のマスターズメンバーにも適任者が居られると思いますし、「全体構成」についても議論のあるところとは存じます。24 年度以降、さらなる展開・充実を図りたいと考えていますので、会員の皆さんのご協力をお願い申し上げます。

### 慰霊碑をめぐる日

広島大学マスターズ広島 代表幹事 植木 研介

原爆が投下され日、私は生後 10 カ月を経ただけの赤ん坊で、自らの記憶で語るべき被爆の記憶はない。しかし爆風で砕けた窓ガラスが左目を抉り網膜に達し、左目は失明し傷跡を残してしまった。物心が付いて以降、大人たちが語る被爆の惨状はわたくしに心の傷を残したのであろう、PTSD という言葉で語られる現象が起こってしまった。PTSD という言葉は辞書によると 1982 年に使われたとあるが第一次世界大戦以降はシェルショックという言葉で説明された事象をベトナム戦争で戦った帰還兵の中にも見つけ心理学者の中で使われ始めた語彙である。私は原爆という言葉避け、特に原爆のもたらす惨たらしい状態を表現する言葉も絵画も写真もできるだけ避けるようにして生活してきた。それでも年月のもたらす癒しの力は大きく次第に症状は軽くなっていく。

50 年後の広島をレポートするため英国の新聞ガーディアンの若い記者が中国新聞社と連絡を取って来広した。彼は私の家に 1 週間滞在し取材を続け、中国新聞の外報部長と私とその記者を資料館に案内することになる。私は原爆資料館の中に入ったことはなく、私の方が引き込まれる心境でいた。ところが入館して分かったことは展示された内容には知らないことが殆どなかったということである。この日から私は変わった。

50 歳を過ぎて 8 月 6 日に動けるようになった。定年までは東千田キャンパスにある広島大学の慰霊碑を含めて 3 つの碑をめぐる日となる。それ以降は元山中高等女学校の慰霊碑と旧制広島市立中学校の慰霊碑をまわり亡くなった人々を悼んでいる。前者はかつて南大橋の東のたもと近くにあり、校舎は潰されたが、そこで私の祖父が被爆し辛うじて生き延びた。祖父は退職していたが乞われて事務の仕事についていた。山中高等女学校は生徒と教師合わせて 387 名を原爆で失い、その慰霊碑は現在国泰寺中学校の南にある荒神堂の小さな敷地の中にあり朝 8 時から慰霊祭が行われている。この学校は福山に移り、広大附属福山中・高等学校となったため高校生の代表が参列している。

もう一つの慰霊碑は現在基町高校の敷地内にある。私の母方の叔父永野純夫が防火帯（現在の平和大通り）を作るため学徒動員され、中学校1年生で小網町において被爆、翌日己斐国民学校で亡くなっている。父親が遺体を見つけるがその遺体は息子と分からぬほどであったという。私の父はこの学校の一年生の学年主任で同じ運命をたどるはずであったが2度目の召集で宮崎の地で塹壕掘りをしていた。翌年己斐の蓮照寺で営まれた慰霊祭では犠牲者の父母に泣きつかれ共に泣くほかなかったと語ってくれた。この学校の犠牲者は369名で慰霊祭は朝10時から始まる。

### 平和科目「平和と人間-C, D」は？

広島大学マスターズ広島幹事 大杉 節

平和科目の「平和と人間-C, D」に講師として加わったのは、当時「平和と人間-C, D」の主担当・世話人を引き受けていた植木さんからお誘いを受けた2012年からだ。宇宙科学センターの運営も軌道に乗り、研究成果も順調に出て安定軌道に乗ったと感じられる状態になった事から、特任として定年後も続けていたセンター長を辞したのを機会に教育にシフトしようと考えていた時だった。東日本大震災の際に起こった福島原発事故で明らかになった、放射能・放射線を恐れ、タブー視するあまり、基本的なリテラシーの教育を怠り、其の結果、福島の住民は酷い状態に置かれた。直接被害の及ばなかった第三者的国民（マスコミを含め）は、同情を装う無知からくる風評被害で福島県民を苦しめるのを見て、放射線実験を手段として研究生活を送り、長年大学院生を教育してきた私としては忸怩たる思いで見えていた。放射能・放射線のリテラシー教育を大学においても行うべきと強く感じた。

平和を維持するために常に検討すべき事柄は非常に多義にわたる。政治、社会、人権、経済、環境、医学を含む科学・技術、どれを取りあげても平和達成に大きな影響をあたえる。「平和と人間」の授業で受講生に「あなたの考える平和とは？」と聞き、グループ討論を行い、「上記の問いに対するあなたの考えをコメントシートに書いて提出してください」と要請してみた。普段はこの様なテーマで友達とグループ討論する機会の少ないであろう学生達にとって、自分が重要と考える事柄の優先度と視点が、それぞれによって大きく違う事が新鮮な印象だったようだ。平和科目の授業にはグループ討論が是非必要だと感じた。

また原発事故や核兵器に関連し、放射能・放射線も平和に重大な影響を与える項目の一つとして取り上げた。我々の周りには例外なく自然の放射能・放射線が存在することを、小型放射線測定器を持参し教室の異なる4か所で同時に、放射線線量の強さを学生自身が測って報告し合った。私がキャンパス内であちこち測定した放射線量をグラフにして紹介し、放射能・放射線は身の回りに常に存在するものであること、場所によっては自然放射能が数倍異なるのは異常なことではない事を示し説明した。また東京近郊で入手した公園

の土を新しく開発した放射線スペクトロメーターで測定したデータを示し、福島原発から飛散した放射能核種であるセシウム 134, 137 からのガンマ線が明らかに認められるが、線量の強さは東広島キャンパスの中の強い所に比べると 1/3 以下で心配する量でない事をデータで示した。また、放射能が出す放射線は特別な毒性を持つものではなく、私達を作っている素粒子が高速で走っているもので、遺伝子に当たれば傷つけるが、止まれば無害、ウイルスの様に増殖しないし、従って他人に移ることはない。この ①身の回りにも自分の身体にも自然放射能がある ②止まれば身体を作る基本粒子と同じで無害 ③増殖しない ④他人に移らない、の 4 点が最も基本的な放射能から出る放射線の性質であることを伝えた所、全く放射能・放射線の知識を持っていなかった学生達はほっと安堵したようだった。

現在の「平和と人間-C, D」の授業担当者、講師は全員がやる気十分で、しかも楽しんで講義していらっしゃることは間違いないだろう。しかし気力で、年齢による体力・知力の衰えを何時まで補うことが出来るであろうか。少なくとも私個人は楽しく続けているうちに自分で終わりを決めたいと思っているが、一緒に行っている講師メンバーに迷惑は掛けたくない。どのような状況が用意できれば個々の講師それぞれが笑顔で終了出来るであろうか？

今、我々マスターズ広島の会員が主力の平和科目「平和と人間-C, D」の講義が存続できるかどうかは、現講師陣が倒れないうちに、平和教育の教育目的に賛同する講師がマスターズ広島のメンバーを含む退職教員の中から次々と現れて高齢講師に代わってくれる事が一番であろう。また、講義の受講者人数を 100 名以内に絞り、老講師陣の負担を軽減し、出来るだけ長く続けられるように図る事も重要だ。あらゆる対策を出来るだけ早急に打つように大学首脳、教養教育責任者に要請したい。

## 屋外被爆体験記—チェレンコフ放射光あるいは「ピカ」について—

広島大学マスターズ広島会員 寺地 遵

### 1. 閃光について

8 月 6 日、牛田国民学校で朝礼を待っていた時に、そのすさまじい閃光は突然にやってきて、全てを包んだ。照らしたのではなく包んだ。私は人類がはじめて経験した最大・最悪の閃光を二度見た、とずっと思いつづけてきた。しかし退職後しばらくした某日、ふと、あの閃光は持続時間があつたのではないか、一瞬、目を閉じてしばらくして目をあけたらまだ輝いていただけではないか、と気付いた。そこで早速に岩波現代文庫『原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ』（執筆は飯島宗一）、第四章、「火球」の項をひもといた。すると、「原爆が爆発すると瞬間にセ氏数百万度の高温が生じ・・・一万分の一秒後に半径 15 メートル、温度約 30 万度の火球が形成され・・・約 10 秒後には火球の光輝は消える」、とあつた。これだ、10 秒という時間は短いことはない。一瞬、目を閉じ、数秒後にまた目をあけ

てみるには十分である。これで数十年間、原爆は二回光った、とこだわり続けた想念は氷解した。

## 2. 闇について

閃光の後に何ともいえない静寂の中に、薄闇がおとずれた。「ボーン」とも、「ブーン」とも、何ともいえない低い音もしていた。漆黒の闇、深い闇ではない、ぼうっと薄明りのある「無状」の闇の時間があつた。

## 3. チェレンコフ放射光について

2011年3月、東日本大地震が発生し、東京電力福島原発事故が起つた。その関連報道の中で『青白き光』という歌集が2004年に刊行されており、合わせてその青白き光とは、1999年9月、茨城県東海村JOC事業所で起きた原子炉事故で死亡した作業員が浴びた閃光で、それをチェレンコフ放射光と呼ぶことなどを知つた。早速に『ウィキペディア』で検索して魂消た。その添付写真（アメリカ・アイダホ国立研究所提供）は、あの8・6の閃光と同じであつた。ソ連の物理学者P.チェレンコフは1934年この現象を発見し、58年にノーベル物理学賞をうけたとのことであつた。加えてその説明にはチェレンコフ放射光の速度は通常の光速より速い、とあつた。これで私が体験した「核分裂連鎖反応」発生時の、表現を超えた光線、その後におとずれた無状の闇、少しずつ明けてきた身辺などの一連の諸現象が、被爆数十年を経過し、やっと科学的に理解できた。

## 広島と平和

広島大学マスターズ広島会員 北川 建次

広島は“Hiroshima”として世界史上原爆最初の投下地として有名である。

広島大学もそれらに関連して研究上・教育上多くの関係を持ってきた。そのことは、西条の地にあつても忘れてはならないことであり、未来永劫に“ヒロシマ”と関わりを持っていく使命がある。

我々の眼からみると、広島大学が西条の地に移転してから、広島のような問題について、関心が薄れていくような気がしてならない。これは教職員、学生ともに切実に感じられることである。

広島大学をはじめ広島の地にある各大学はとりわけ、こうした事例を研究し、教育していく義務と責任があると思う。

広島に来る人は必ず原爆資料館を訪問し原爆の恐ろしさと平和への希求を新たにす。この資料館の原形は広島文理大地質学科出身であつた故長岡省吾氏に由来する。戦後まもない頃、衣食の乏しき中にあつても、事の重大性に気付いていた長岡氏の身命を投げうっ



での努力が今日の資料館の原形を形作っている。

このほか文学部の森滝先生、今堀誠二、森戸辰男学長など、数多くの学者、医学の都築先生をはじめ数多くの先生方の御尽力により、原医研の礎となった。

こうした数多くの学者の努力によって、今日の“ヒロシマ”の研究と実践が示されている。

繰り返すようであるが、広島の地にある大学や研究所は、ヒロシマの研究を通じて、世界の平和と福祉に貢献できるに違いない。また広島の各大学、研究機関に従事する人は、こうした事実を目を向けて欲しいものである。

### 平和科目「平和と人間」に参加させて頂いて

広島大学マスターズ広島会員 武市 宣雄

平成 23 年広島大学の平和科目「平和の人間」で、渡邊一雄先生（名誉教授，細胞生物学）から前期（C）では「広島で学ぶ（原爆は何だったか）」として「放射性物質は何を残すか」、後期（D）では「被爆と人体」と「これからの放射線医学」を講義するよう依頼を受けました。卒業後もずっと広島大学で外科の江崎 治夫教授、土肥教授及び病理の廣瀬文男教授から長く原爆被爆者の人体影響を学んできましたので、甲状腺という狭い立場からではありましたが甲状腺を中心とした放射線の影響と平和を総合的観点から説明できる良い機会を与えて頂いたと感謝しました。

広島の前爆被爆者、マーシャル群島の水爆実験、カザフスタンの核実験、チェルノブイリと福島の前発事故で生じた放射線の人体影響を、こころ（心）の問題も含めた平和という次元の高いレベルから講義できるか、最初は本当に心配でした。それからあつという間に 10 年が経ってしまいました。その間担当教授は植木 研介先生（文学）、大杉節先生（宇宙科学）、圓山 裕先生（磁性物理学）と繋がれてきて、新しい研究成果も毎年 1 つは取り入れられるように努力してやってきました。今年は圓山先生担当の C ではいろいろな放射線の身体的影響として I. 広島前爆被爆、チェルノブイリ前発事故を含めてと II. 甲状腺との関係を、そして植木先生担当の D では放射性物質は何を残すかとして I. 放射線と後障害、甲状腺を中心にと II. 放射線と平和、甲状腺を含めて、とさせて頂きました。講義を続けるうちに放射線の恐ろしさと共に甲状腺ホルモンの役割、放射線による甲状腺癌発生メカニズム、甲状腺を介した放射線と平和との関係を少しずつ理路整然と学生さんに説明できるようになってきた気がしています。今後共できるだけ広島大学への恩返しができるように努めたいと思います。

初年度（2011年度）の授業計画（講師および講義題目）と各年度の担当者を次の一覧表で示します。

「平和と人間 C -広島で学ぶ（原爆とは何だったか）」

回	講師氏名	退職時の所属	講義題目
1	渡邊一雄	総合科学部	問題提起と授業の組み立て
	(1) 戦争とはなにか		
2	岡本 明	文学部	ナポレオン戦争とヨーロッパ
3	井上研二	総合科学部	民俗紛争
4	高橋 衛	経済学部	戦争と軍縮 I
	(2) 原爆とは何だったか -ある被爆体験		
5	植木研介	文学部	ある被爆体験
6	植木研介	文学部	被爆と詩歌
7	寺地 遵	文学部	被爆体験の重み
8	北川健次	教育学部	被爆をどう伝えるか I
9	北川健次	教育学部	被爆をどう伝えるか II
10	岩崎文人	教育学部	小説を通してみる原爆
11	岩崎文人	教育学部	小説を通してみる原爆
	(3) 原爆の威力とそれが残すもの		
12	石丸紀興	工学部	復興と被爆建物の保存
13	武市宣雄	医学部	放射性物質は何を残すか
14	宇吹 暁	原医研	被爆資料と総括
15	渡邊一雄	総合科学部	むすびー現在から未来へ
16	渡邊一雄	総合科学部	期末試験

「平和と人間 D -広島から未来に向けて」

回	講師氏名	退職時の所属	講義題目
1	渡邊一雄	総合科学部	問題提起と授業の組み立て
	(1) 戦争は何をもたらすか		
2	岡本 明	文学部	ナポレオン戦争とヨーロッパ
3	高橋 衛	経済学部	戦争と軍縮 II
	(2) 被爆体験をどう伝える		
4	北川健次	教育学部	被爆体験(1)
5	岩崎文人	教育学部	被爆体験(2)
6	寺地 遵	文学部	被爆体験(3)
7	植木研介	文学部	被爆体験(4)
8	宇吹 暁	原医研	被爆資料と総括
9	宇吹 暁	原医研	映像の提示・解説
	(3) 原子核科学が人類に残すもの		
10	大杉 節	理学部	原爆の威力
11	大杉 節	理学部	原発を考える
12	武市宣雄	医学部	被爆と人体
13	武市宣雄	医学部	これからの放射線医学
14	渡邊一雄	総合科学部	同位元素標識、バイオ兵器
15	渡邊一雄	総合科学部	むすびー現在から未来へ
16	渡邊一雄	総合科学部	期末試験

各年度（2012～2020年度）の担当者

「平和と人間 C—広島で学ぶ(原爆とは何だったか)」

回	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	圓山 裕
2	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	植木研介	植木研介	植木研介
3	井上研二	井上研二	井上研二	井上研二	岡本 明	岡本 明	植木研介	寺地 遵	植木研介
4	北川建次	北川建次	井上研二	井上研二	植村泰夫	植村泰夫	岡本 明	岡本 明	石丸紀興
5	北川建次	寺地 遵	北川建次	北川建次	植木研介	植木研介	岡本 明	岡本 明	石丸紀興
6	寺地 遵	大杉 節	大杉 節	大杉 節	植木研介	植木研介	植村泰夫	植村泰夫	岡本 明
7	寺地 遵	大杉 節	大杉 節	大杉 節	井上研二	井上研二	井上研二	大杉 節	岡本 明
8	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	井上研二	井上研二	田中久男	田中久男	田中久男
9	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	大杉 節	大杉 節	石丸紀興	石丸紀興	宇吹 暁
10	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	大杉 節	大杉 節	石丸紀興	石丸紀興	宇吹 暁
11	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	大杉 節	宇吹 暁	大杉 節	伊藤詔子	大杉 節
12	石丸紀興	石丸紀興	石丸紀興	石丸紀興	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	武市宣雄
13	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	宇吹 暁	宇吹 暁	武市宣雄
14	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	植村泰夫
15	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	石丸紀興	石丸紀興	武市宣雄	武市宣雄	圓山 裕
16	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	圓山 裕

「平和と人間 D—広島から未来に向けて」

回	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	大杉 節	大杉 節	植木研介	植木研介	植木研介
2	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明	岡本 明
3	井上研二	井上研二	井上研二	井上研二	井上研二	岡本 明	植村泰夫	植村泰夫	植木研介
4	高橋 衛	井上研二	井上研二	井上研二	井上研二	井上研二	井上研二	田中久男	植村泰夫
5	北川建次	北川建次	北川建次	岩崎文人	岡本 明	井上研二	寺地 遵	岩崎文人	田中久男
6	寺地 遵	寺地 遵	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	岩崎文人
7	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	岩崎文人	伊藤詔子	大杉 節
8	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	岩崎文人	大杉 節	圓山 裕
9	石丸紀興	石丸紀興	石丸紀興	石丸紀興	石丸紀興	石丸紀興	田中久男	圓山 裕	植木研介
10	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	宇吹 暁	植木研介	植木研介	宇吹 暁
11	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	宇吹 暁	石丸紀興	植木研介
12	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	大杉 節	石丸紀興	宇吹 暁	武市宣雄
13	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	大杉 節	植木研介	武市宣雄
14	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	武市宣雄	石丸紀興
15	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	植村泰夫	植村泰夫	武市宣雄	武市宣雄	
16	植木研介	植木研介	植木研介	植木研介	大杉 節	大杉 節	植木研介	植木研介	

## 韓国留学生の教育に関わって

広島大学マスターズ広島 元代表幹事 渡邊 一雄

『広島大学マスターズ広島の創設 10 周年記念特集号』の刊行、おめでとうございます。発足前後の 2010 年ころ、庶務幹事の松水征夫先生のお助けのもと頑張りました。2012 年 1 月の緊急入院（脳梗塞）で、「平和科目」責任者から「代表幹事」まですべてを植木研介先生に丸投げ、2018 年 10 月の入院時（心房細動）には大学院共通科目の「健康生活科学」の「授業担当から責任者まで」渡邊敦光先生（次いで井内康輝先生）に同様の丸投げでした。かくも度々ご迷惑をおかけしながら、“大穴が空く”ことのない本会のご発展を見て、多くのご担当の方々に心から敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。いまあまり多くを語る資格も元気がなく、より良いお手伝いができればと心から願っております。

さて、総務担当幹事の渡邊敏正先生と本特集号の編集担当である広報担当幹事の圓山裕先生から原稿の依頼を受けました。『設立時の様子』と『平和科目』については、私見は当会の連絡誌『マスターズ広島 News Letter』の初期の号（松水先生のご努力）に尽くされています。以降の『日韓留学生予備授業（生物）』について簡単なお報告でお許し願いたいと思います。

この授業は、広島大学国際交流センター（現、森戸国際高等教育学院）が窓口で 2019 年まで約 20 年間続いた「日韓理工系学部留学生予備授業」（2019 年度で全終了）の一部（物理、化学、生物、数学）を、われわれ「広島大学マスターズ広島（物理、生物）」と「広島大学マスターズ（化学、数学）」が協力して、2011 年度から 2019 年度まで 9 年間、お助けしたものです。

日韓理工系学部留学生とは日韓両政府間の制度で、日本の大学の理工系学部が韓国からの留学生約 100 名を 4 年間、国費で受け入れ（韓国 50%、日本 50%負担）、広島大学は毎年 5~7 名前後を受け入れてきました。4 月入学予定の（予備）学生に、入学に先立つ半年間、「日本文化、日本語、理系基礎科目（高卒レベル）」を日本で暮らし広島大学で教育する講義科目です。物理は、はじめの 5 年間、山下英生先生、そのあと渡邊敏正先生が、「生物」は私が一貫して責任者を務め、各 10 コマずつを担当しました（10 月から 1 月ころまで）。

以下、講義の実情です。実際には、韓国の高等学校でかなり厳しい試験を経て入学を許された概ね 18 歳の少年少女（男子が多く女子は 1 名）で、単身で 10 月 1 日前後に来日し、広島大学国際センター（当時）に所属しており、いわば来日後一週間以内でわれわれに“お目見え”するわけです。学問的・人間的に大学の責任は重く、それゆえやり甲斐ある仕事でした。何より“マスターズの設立趣旨”、の現職教職員の手助けにかなうものです。

私は初年度は 10 コマ全部を担当し、はじめの 30 分ほど英語で始めたところ、学生たちのレベルは高く、日本語もときに判らない学生がいる程度なので、本来の「日本語で講義

を受ける準備」の趣旨から、簡明な資料の解説を主に、顔を見ながらゆっくり日本語（専門用語は英語併記）で話していきました。

学生のおよそ 9 割は進路予定が工学系で、まれに生命科学系がいる程度なので、韓国における学習状況を尋ねつつ、目標を、①“生命科学と生物学”の違いの明示と、今後の工学的技術社会における役割を示すとともに、医学・農林漁業におけるゲノム科学の現状と未来の解説、②この科学分野の「基礎的社会常識」の提示、としました。今後の科学的夢を語ることに努めました。

生物科学は分野が広く、またミクロ（分子科学）からマクロ（形態学・行動学・生態学）を含みともに 21 世紀の重要な基礎科学なので、工学系の学生ほど必要な“基本的な生命と生物（ヒトを含む）への見識の付与”を 10 回にまとめことに腐心しました。私にとっても勉強になりました。

学生の聴講態度は良好（稀に理由あって眠るが）で、ときに質問もあり、講義ごとに、①本日の要点、②感想（韓国との共通点と違い）を提出させつつ、楽しく有意義に進められたと自賛しています（学生の授業評価も良好）。

一年目の終了後、学生たちと懇談の上、第二回から、10 回を 3+3+3+1 に分け、3 名の分担として以降 8 年間続けました。私が、分子生命科学の基礎、『DNA とタンパク質、脂質二重層膜の構造と役割』、および『ヒトの医学医療と生命科学』、次に、設楽惣助先生（元総合科学部）が、地上の『全生物にとっての微生物の役割（実験中心でデータと解析）』、最後に、榭井秀雄先生（理学部）が、『物質科学としての光合成と生物の呼吸・代謝』、および『地球上における全植物相の役割』を各 3 回講義とし、最後に私が『総括と試験』を課して成績提出しました（試験は、講義内容の総括と感想を求めた）。

また、日本では、高校教科『生物』の教育には、①いわゆるミクロ（分子科学）とマクロ（種生物学、行動学、生態学）の乖離が大きく（教員教育の問題も）、②近年のゲノム科学、情報科学の導入による革命的進歩の導入が異常に遅れ、③先進諸国では当然の“ヒトの医学・医療への基礎教育”を意図的に欠く（教科「保健体育」との協調不足と医学医療の聖域化）、という特殊事情があります。このため、約 20 年前、赤坂甲治東大教授・丹羽太貫京大教授（ともに元広島大学教授でわが“マスターズ”の有資格者。未加入）と私の 3 人共著で作成した『新版生物学と人間（裳華房）2,300 円』を、図版の活用と高校教科書との比較の目的で使用しました。はじめの 2, 3 年間は全員購入で、以降は希望により先輩から順送り可としたが多くの学生が購入し、“教員と学問”に対する学生の attitude に、我が国との大差を感じました。ちなみに、自慢ながら本書は 2000 年の初版後、販売実績 2 万 8 千部（凄い！）で、2010 年に改訂・再販したもので、大学の“心ある教員”の生物教育上の困窮と要請の高さを実感しています。

## 韓国留学生に電磁気を教える

広島大学マスターズ広島幹事 渡邊 敏正

この予備教育は、韓国から広島大学の理工系学部に入学者高卒国費留学生（10月来日、翌年4月入学、5～7名程度）に、本学での日本語による科目履修に慣れてもらうことが大きな実施目的である。実施母体は広島大学国際センター（現、森戸国際高等教育学院）、実施時期は10月～翌年2月であった。なお、本事業は2019年度で終了となっている。

用意された科目は、理系基礎科目（数学、物理、化学、生物）、日本語、英語などである。このうち、生物と物理を2010年以来、広島大学マスターズ広島の会員が担当してきた。各年度、物理は電磁気学と力学で5回ずつ計10回実施した。2016年度からは、力学については担当者の関係で、西条の広島大学マスターズの会員に依頼した。2010～2015年度は、電磁気学は山下英生会員、力学は米倉亜州夫会員が担当した。2016～2019年度は、電磁気学は当方が、力学は松尾彰会員（西条の広島大学マスターズ所属）が担当した。

非常に大まかな電磁気学のイメージである。物質中の原子核はプラスの電気量、電子はマイナスの電気量を持つ。原子核と電子の間には引力、電子間あるいは原子核間には斥力が働く。これらを（静）電気力という。電子の流れが電流である。移動する電子（電流）は周囲に磁場を発生し、磁場内を動く電子には磁気力と呼ばれる力が働く。一般的に、電流と磁場変化には相互作用がある。電磁気学はこのような内容を扱う。理工系学部における電気関連分野の基礎的必須科目であるが、履修には数学的知識と抽象概念の理解力が必要で、留学生にはさらに語学力の壁も立ち上がる。

電磁気学の入口部分を日本語で易しく解説することで、専門科目への導入を意図しながら日本語の講義に慣れさせ、上述の壁をできるだけ低くすることが主題である。唯一の共通言語である英語が学生はそれほど得意とは言えない状況だったが、日本語に時々英語と俄か勉強のハンゲルを交えてなんとかコミュニケーションは取れた。

不慣れな環境で日本語、英語、理工学系科目を1日に3～4科目も履修するので対応力に個人差が見え、疲れから体調不良者も出る。少し柔らかい話を挟みながら、易しくイメージを伝える工夫をしてみた。意図通りにできた保証はないが、後に日本人学生と行動を共にしている受講生を見かけて、少しホッとした記憶がある。

日韓共同理工系学部留学生予備教育 担当講師リスト

年度	生 物	物 理	数 学	化 学
2011	渡邊 一雄	山下 英生 米倉 亜州夫	水田 義弘	平田 敏文
2012	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	山下 英生 米倉 亜州夫	水田 義弘	平田 敏文
2013	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	山下 英生 米倉 亜州夫	水田 義弘	平田 敏文
2014	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	山下 英生 米倉 亜州夫	今岡 光範	平田 敏文 谷本 能文
2015	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	山下 英生 米倉 亜州夫	今岡 光範	平田 敏文 谷本 能文
2016	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	(松尾 彰) 渡邊 敏正	今岡 光範	平田 敏文 谷本 能文
2017	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	(松尾 彰) 渡邊 敏正	今岡 光範	平田 敏文 谷本 能文
2018	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	(松尾 彰) 渡邊 敏正	今岡 光範	平田 敏文 谷本 能文
2019	渡邊 一雄 設楽 惣助 榊井 秀雄	(松尾 彰) 渡邊 敏正	今岡 光範	平田 敏文 谷本 能文

マスタース広島は生物と物理（電磁気学、力学）を担当、2016～2019年度の物理（力学）はマスタース（東広島）が担当した。

## 2-2-2. 大学院共通科目「学問と社会」

### 大学院共通授業科目の提案・実現まで

広島大学マスターズ広島幹事 於保 幸正

大学院共通授業科目の提案から実現に至る過程で、広島大学マスターズ広島の窓口となり、シラバス作成や事務方との交渉を進められてきたのは松水征夫先生です。実現に至る経緯について、松水先生が書かれた「東千田未来創生センターにおける教育・研究プロジェクト事業計画書」やマスターズの会報あるいは現在残っている幹事に送られたメールなどを参考にして、まとめてみたいと思います。

大学院共通授業科目の提案のきっかけとなったものは、東千田未来創生センターの設立にあります。東千田未来創生センターは、2016年（平成28年）4月に本学の広島地区学生の教養教育を実施するとともに、大学間・産業界等との連携による教育・研究プロジェクト事業を実施して社会貢献・社会連携を推進することを目的として設置されました。前者は主に霞地区に通う1年生を対象として教養教育の授業を実施しようとするものです。後者の教育・研究プロジェクトの学内公募は2013年7月から行われました。大学からは、広島大学マスターズ広島にプロジェクトを提案する様に求められました。そのために、広島大学マスターズ広島は広島大学マスターズの会員と連携して、社会連携講座を開くことで応募することになりました。具体的には、東千田未来創生センターで開講される社会人大学院生のための「大学院共通授業科目」を提供することが考えられていました。2013年12月の役員会で、10件の公募が認められ、広島大学社会連携講座もその中に入りました。このことにより、東千田未来創生センターに設置されるプロジェクトルーム（4-4号室）の利用が許可され、広島大学マスターズ広島の活動拠点が確保されることになりました。

大学院共通授業科目としては「学問と社会」および「健康生活科学」の2科目を想定し、その具体的な内容と担当者を詰めてシラバスを作成するために、2016年10月頃から会員へのアンケート調査が実施されました。その結果、シラバスの原案と担当者の案が作成され、2017年1月に教育本部教務委員会に提出されました。その際、「健康生活科学」を東千田未来創生センターで開講すると受講者が少なくなるのではないかと危惧され、教育室、霞学生支援室、教務委員会などで学内調整がなされ、霞キャンパスで医歯薬保健学研究科医歯科学専攻（医療系の4年制学部（医学部保健学科、歯学部口腔健康科学科など及び医療系以外の学部）の卒業生を対象とした修士課程）の開設科目として夜間授業時間帯に開講する方向で検討されることになりました。

最終的には、「学問と社会」は大学院共通授業科目として教育本部教務委員会で2017年1月に、「健康生活科学」は2017年3月に医歯薬保健学研究科教授会で承認を得ることになり、2017年度（平成29年度）から「学問と社会」は前期に、「健康生活科学」は後期に



授業が実施されることになりました。授業を実施してはや三年が過ぎようとしています。松水先生を始め、教育本部教務委員会の委員の方々および教育室の事務の方々のご努力とご支援に感謝いたします。

## 大学院共通授業科目「学問と社会」

広島大学マスターズ広島幹事 於保 幸正

「学問と社会」は東千田キャンパスで夜間の授業時間帯に開設されています。シラバスに記載されている授業の目標は、「現代の社会問題に学問の進歩が果たした役割について講義する」となっており、それぞれの学問分野が社会とどのような関係にあるのかを考える機会となることを目指しています。2019年度の担当者とそのテーマは以下のようでした。

	担当者	テーマ
1	於保幸正	ガイダンス 地質学と社会 –環境変遷と生物の進化–
2	田中久男	アメリカ社会と文化
3	田中久男	アメリカ文学の主流–マーク・トウェインからヘミングウェイへ–
4	植木研介	イギリス・ビクトリア朝文学研究と日英比較文化論
5	植木研介	ヴィクトリア朝における、新しい紳士像の概念と論理構成
6	田中春彦	科学と社会–環境汚染の現状と対策–
7	田中春彦	科学と社会 –エネルギー問題と社会との係わり–
8	大杉 節	放射能・放射線の科学と社会の安全
9	廣川 健	バイオテクノロジーと分析化学 –DNA の発見–
10	廣川 健	バイオテクノロジーと分析化学 –遺伝子解析–
11	於保幸正	地質学と社会 –岩石と人間生活との係わり–
12	渡邊敏正	コンピュータの素顔とアルゴリズムデザイン –コンピュータの機能（ハードウェア）と情報処理の仕組み（ソフトウェア）–
13	渡邊敏正	コンピュータの素顔とアルゴリズムデザイン –情報の収納方法（データ構造）や処理手順（アルゴリズム）–
14	平木秀作	科学的経営管理
15	平木秀作	自動車の生産管理

2017年度から昨年度までの受講者は以下の通りです。

	2017年度	2018年度	2019年度
受講者数	2	3	3

2020年度も授業が計画されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の為か受講生の登録が無かった。

## アメリカの大学と社会

広島大学マスターズ広島会員 田中 久男

アメリカ社会が激しい競争原理で動いていることは、一般によく知られているが、アメリカの大学というアカデミズムの世界も例外ではなく、むしろそれが特化した場所でもある。私も若いころ奨学金をもらって競争の場に投げ込まれたので、その厳しさは身にしみて覚えている。

競争原理という仕組みは、アメリカのような多民族国家の場合、国民に機会の均等と平等の扱いをガラス張りで保証する、もっともわかりやすく、また納得しやすいものである。親の七光りのような外的な助けに頼るのではなく、自分の力で競争を勝ち抜いていくというタイプの社会的成功者をたたえる風潮が、アメリカの夢を絶えず活気づける源泉である。セルフメイド・マンを英雄視する伝統が、今でも根強くアメリカにはあるのだ。トランプ大統領が時に品のない言動でひんしゆくを買いながらも、一定の支持を得ているのはその証しである。

アメリカの大学は端から見ても、絶えず新しい領域に踏み込んでいこうとする、いわゆるアメリカ人の誇る開拓者精神に満ちているのがよくわかる。「出版するか、さもなくば消え去るか」という、研究者の道を歩み始めようとする人間にとって、血を吐くような苛酷な掟が待っている。この掟は不文律の場合が多いのだが、アカデミズムの世界を隠然と支配している。常に研究の成果を発表して、自分が研究の場に残る資格と意志があることを証明しなければならないのである。そういう意味では、アメリカの高等教育機関は、知性主義の殿堂であり砦でもあるのだ。

しかし、そうした砦が象牙の塔にならないように、知性主義がもたらす成果がエリートだけが味わえる果実ではなく、一般の国民にも利益をもたらす有益なものかどうかを、絶えず看視し検証しようとする厳しい世間の目があるのも事実である。そのような風潮は反知性主義と呼ばれるもので、アカデミズムの狭い世界で培養されている専門的な知に対する、大衆からの厳しい牽制球のようなものと言えればわかりやすいだろう。

このように、未開拓の領域を絶えず切り開いていこうとする先鋭な知性主義と、専門家のエリート的な知の有用性を、国民が持っている良識という武器で常に確かめようとする反知性主義とのせめぎあいが、アメリカ社会の活力を生み出す要因であるのは間違いない。トランプ大統領がオバマ前大統領をことさらに敵視し、彼の業績をこき下ろすのは、こうした構図を意識したパフォーマンスと見れば、大衆を煽り自分の味方につけようとするトランプ氏のしたたかな戦略が見えてくるはずである。

## 岩石と人間の係り

広島大学マスターズ広島幹事 於保 幸正

「学問と社会」は大学院での教養教育科目として位置づけられています。教養教育としては、学問が社会とどのような繋がりを持っているのかを理解することが大事ではないかと考えています。特に、大学院の学生にとっては様々な学問分野を俯瞰し、それぞれの学問がどのような関係にあるかを見極めることは重要であろうと考えます。俯瞰し、関係を見極めることはなかなか難しいことだと思います。このことは授業だけではできないことかも知れませんが、学生は授業を通じて経験を積むことによって可能ではないかと思えます。

私は地質学を専門としていますが、「学問と社会」では地質学そのものを講義することは考えていません。2コマを担当することから、「地質学と社会」と題して、地質学と社会はどのような関係にあるのかを意識しながら、「環境変遷と生物の進化」および「岩石と人間生活との係わり」について授業することにしてあります。その理由は二つあります。一つは、地質学が歴史学である視点を理解し、地球環境が変化している状況を知ってもらうことです。また、地球環境が大きく変化することにより、生物もそれに対応する様に変化していることを理解してもらう必要があります。現在、地球温暖化が指摘されていますが、環境変遷という視点では現在は氷河期の中の間氷期であり、将来どのような様になるかについては良く分かっていません。気温がさらに高くなり極地方の氷河が全てなくなる様な状況に至るかもしれませんし、逆に寒くなるかもしれません。長いスパンでの環境変動を考える必要があります。私自身の興味とすれば、我々ホモ・サピエンスは誕生以来長い期間を氷河期の中で生活してきましたが、この悪い環境下で「ホモ・サピエンスはどのように知性を高めてきたのか」については特に考察したいテーマです。

我々ホモ・サピエンスは岩石、岩石から得られる金属資源および岩石から得られる化石燃料としてのエネルギー資源を利用して、文化を形成してきました。しかしながら、その詳細について学生さんらはほとんど理解がありません。そのために、身近にある資源が社会生活とどのように関わっているかを知ることは重要であると考えました。これが、「岩石と人間生活との係り」として授業する二つ目の理由になります。例えば、アルミニウムは熱帯雨林の地域で岩石が風化した結果、岩石中に残留した元素です。発見されたのは意外に新しく、約200年前です。銅や鉄の発見と比較して随分と遅く発見されました。このアルミニウムは、強く軽い材質としてリサイクルの観点からも様々な場面で使用されていますし、ジュラルミンとしての合金も開発されています。このような金属資源の発見と利用については、人間生活を営む上で理解して欲しい事柄だと思います。

地質学と社会の関係を理解する過程で、視点や観点を換えることによって興味ある事柄が浮かび上がってくるし、思いもよらない事柄が互いに結びついていることを発見できます。このような知的な活動が教養教育としては大事かと思えます。

## 英仏日近代革命の比較（1）

広島大学マスターズ広島会員 岡本 明

平和学講座のCでは「フランス革命とナポレオン戦争」を、Dではこの近代史上の戦争を20世紀兩次世界大戦と比較して話している。ここではナショナリズムの興隆を視野に入れ、近代革命を比較したい。紙幅の制約上、明治維新は別の機会に譲ろう。

よく、イギリス清教徒革命と名誉革命（1642～88）、フランス大革命（1789～1799）を模範にして先進国型革命とし、「下からの資本主義が貫き、この点で明治維新の上からの資本主義とは対照的である」といまだに主張する説がある。けれども、はじめの二つを模範というにしては、あまりにもタイプが異なる。

イギリスでは16世紀にジェントリーとよばれる中堅層が勃興し、一部は貴族化する一方、囲い込みによって自ら封建領主から近代地主への脱皮をはかり、絶対王政から議会君主政への転換を支えた（政治）。ジェントリー資本主義とよぶにふさわしく、18世紀末からは鉱山・鉄道・運河会社への出資・政府公債の購入で富を築いた。中流階級に属するロンドン商人は、革命で王権の専制化に抗して議会を背後から支えたが、19世紀にはリヴァプールなど地方商人層がこれに代わって、東インド会社解散に見られる自由貿易の時代を築いた（経済）。翻って、国民としての一体感は、16世紀スペインやローマ教皇に対する国教会擁護と結びついて現れ、清教徒革命時代は革命派の内紛を抑制する意味も含めてアイルランド遠征が行われ、この地に不在地主制が広がった（イギリス帝国の端緒）。1790年代～1815年の仏革命・ナポレオン戦争期には改革運動と反仏・反改革運動が交差したが、戦後、戦勝を称える記念碑が建てられ、規律化とレスペクタビリティによって、下位者が上位者を敬う心性を培い、海外植民地統治者をも包摂する英帝国特有のナショナリズムが諸階級を結合した（ナショナリズム）。

これに引き換えフランスの革命は、立憲君主制から始まり、途中から干渉の構えを示す普・墺など絶対主義国と対戦し、次いで欧州に通商利害を残すイギリスとも開戦した。この間、ブルジョワ中道リベラルから左翼急進派＝ジャコバン・山岳派に政権が移り、かれらは防衛戦争を担いながら89年人権宣言を解釈し直して、平等主義的傾向を強めたが、ほぼ1年続いたのみで、革命の究極的成果と見なすには短命であった。

その後、政権は政体論・権力論を異にする中道左派から中道右派の間で揺れ動いた（20世紀フランスを先取りする多党傾向）が、中道左派の担ぐ常勝将軍ナポレオンが政権を握り、議会でなく行政府に統治の主体を置く政権が生まれた（政治）。

大陸の諸国民を専制君主の軛から解放するという思想が膨張し、ナポレオン期には第三次、第四次対仏大同盟を向こうに廻し、隣接諸国への封建制・土地改革・憲法・民法典の導入が試みられた。それは決して一部の西洋史研究者が誤解して言うような反革命ではない。むしろ一種の中道政治であり、フランス革命の振り子はいったん左にぶれたのち、中央の垂線上で止まり、比較的持続性ある政権となった（15年間）。立憲君主制か民主共和

政かが叫ばれる中から、いつの間にか権威主義的帝政が出現する。歴史の逆説とも見られるが、あくまで説明可能な過程である。この帝政は、イギリス国民諸階層の心性とは相容れない政体であった。

この帝政は、イギリスに対する重商主義戦争を遂行しつつ（経済）、大陸諸民族には優越感・使命感を抱きつつ、1810年まではそれぞれの近代改革への側圧を形成した（ナショナリズム）。このように英仏間で多くの点が異なり、同時期では互いに心性的対立さえ見られるが、両者の共通項は、封建領主制の打破と絶対王政の廃止であり、慣習法のイギリス、成文法のフランスという違いはあれ、実質上の立憲主義と権力の分立（ただし水平的三権分立とは限らない）である。イギリスは変革過程でもアイルランド、スコットランドの問題を抱えたが、フランスでそれに当たるのは隣接大陸諸国・民族の衛星国家（ドイツ）・姉妹国家（イタリア）であった。

では明治維新とは、何が、どこまで比較可能であろうか？これが次の課題である。

### 「広島大学マスターズ広島の10周年」に寄せて

広島大学マスターズ広島会員 平木 秀作

私が広島大学マスターズ広島の会合に初めて参加させていただいたのは、2013年(平成25年)春の例会(宇宙科学センター附属東広島天文台見学会)でした。同年12月には第3回例会で頼山陽史跡資料館も訪問しました。以来今日まで、総会や中国醸造見学会、マツダミュージアム見学会、ミニ懇話会等々各種イベントに参加させていただきました。いずれの企画も私にとっては大変有意義で楽しかったです。お世話いただいた幹事の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。また、2017年(平成29年)に開講された広島大学大学院共通授業科目「学問と社会」では、メンバーの一員として最後の2回を分担させていただきました「科学的経営管理」と「自動車の生産管理」をテーマに講義しています。私の専門が経営工学で、主な研究テーマが混合製品ライン生産システムの設計でしたので、「科学的経営管理」では、IE、OR/MS、QC等の経営管理技術の基礎概念と経営意思決定を支援する情報システム(Decision Support System: DSS)の設計方法を紹介しています。「自動車の生産管理」では、在職中に私が取り組んだ研究テーマをいくつかを紹介しています。自動車は、専用の組立ラインを使用してたくさんの構成品・部品を組み付けして生産されますが、どの作業をどの作業者に割り当てるかを決める作業編成(Line Balancing)、組立ラインに流す品目の順番を決める投入順序決定方法(Sequencing)、組立ラインに供給する構成品・部品の生産・外注指示方式(Ordering System)等々、様々な課題があることを紹介しています。社内及び関連企業から調達する数万点に及ぶ構成品・部品の生産・外注指示方式は組立ラインの生産性を高めるうえで重要な課題であり、「いるものを、いるときに、いるだけ」という、引っ張り型指示方式(Pull Type Ordering System)が採用されています。自動

車産業の国際化に伴い、多国間で構成品・部品の相互補完が行われていますが、今年に入って突然、中国武漢発新型コロナウイルスがパンデミックを起こし、世界経済がパニックになっています。自動車産業も操業を休止あるいは縮小し、サプライチェーンが混乱しています。一刻も早くこの混乱が収束し、正常な状態に回復することを念じています。

「学問と社会」担当者一覧

回	2017年度	2018年度	2019年度
1	於保幸正	於保幸正	於保幸正
2	田中久男	田中久男	田中久男
3	田中久男	田中久男	田中久男
4	植木研介	植木研介	植木研介
5	田中春彦	田中春彦	植木研介
6	於保幸正	田中春彦	田中春彦
7	大杉 節	大杉 節	田中春彦
8	廣川 健	廣川 健	大杉 節
9	中田 高	廣川 健	廣川 健
10	中田 高	於保幸正	廣川 健
11	今村 詮	今村 詮	於保幸正
12	渡邊敏正	渡邊敏正	渡邊敏正
13	渡邊敏正	渡邊敏正	渡邊敏正
14	平木秀作	平木秀作	平木秀作
15	平木秀作	平木秀作	平木秀作

## 「学問と社会」受講生による感想

2019年度受講した学生から感想文が寄せられています。これを読むと授業の様子が少しでも分かるのではないかとと思われるので、以下にいくつか掲載します。

### 「学問と社会」を受講して

社会科学研究所法政システム専攻 浅原 稔晴

広島大学マスターズ広島 10周年おめでとうございます。私は、2017年度に社会科学研究所法政システム専攻に入学しまして、東千田未来創生センターにて、マスターズの先生方による「学問と社会 2019年度（前期）」を受講させていただきました。

私の専攻は「社会学分野」でしたが、大学院共通科目としての「学問と社会」は、専門分野の垣根を超える、様々な内容で構成され、大学院での研究にあたり、広い視野から物事を考える材料を与えて頂いたと感謝しております。

また、本講義の魅力を私の視点から述べると、何よりも長年広島大学で教育・研究に携わって来られた一人一人の先生方の授業は、とても奥深く、温かみのある時間であったと振り返ることができます。大学院での研究は、決して容易なものではないですが、先生方の授業の中に「学問を通じての今後の人生のメッセージ」も感じ取ることが出来たというところが大きかったと振り返れます。

最後に、私は山口県で仕事を持ちながら、本講義を受講させていただきましたが、忙しくも毎週楽しみに「今日はどんなお話しが聞けるだろう」と新幹線を通ったことが、私にとっても思い出に残る人生の一コマになると思います。

終わりに、広島大学マスターズ広島が今後ますますの発展されますことを心よりお祈りいたします。

### 「学問と社会」感想

社会科学研究所法政システム専攻 岡本 藍

この度は、広島大学マスターズ広島 10周年おめでとうございます。

私は、2019年度に本大学院に入学し、基礎科目の履修に迷っていたところ、大学院の先輩から『迷っているなら絶対この科目!!』との強い勧めを受けたことで、「学問と社会」を受講するに至りました。シラバスを見た時は、学部時代から法学を学び、本大学院では刑事法分野を専門に研究しているという根っからの文系である私が、理系科目を専門にしている先生方が多いこの科目についていけるのかという不安を抱えていましたが、実際に受講してみると、どの先生も自らの専門について、専門外の私にも理解できるように講義を進めて下さったことで、普段の専門科目の講義では殆ど感じる事のない“そうだったん

だ！へえー！！”という純粋な驚きや新たな知識を得ることが出来、また、講義がオムニバス形式だったこともあり、2回目以降は、次回の講義は何がテーマなのだろう？と、1週間が待ち遠しくなっていたのを覚えています。

そんな多種多様な講義の中で、私が特に印象に残っているのは、第8回講義を担当してくださった大杉節先生の講義です。座学中心の講義であった中、唯一講義室から出て、大杉先生が開発したという携帯型放射線検出器を使って、実際にキャンパス内の各場所の放射線量を測定していったのは、普段放射線とは無縁の生活を送っているとばかり思っていた私にとって、実は放射線は身近な存在 なんと知ることが出来た新鮮な体験であり、実際に目にすることで、記憶に強く残っています。(その時は、未来創生センターの3階が3~40個、4階が4~50個、食堂前の岩のオブジェが、なんと98個！これは、原爆の時にあったものだから保有数が多いのだろうとのことでした。原爆なんてはるか昔のことだと思っていたので、未だに影響があることにも驚きました。)

また、マスターズの先生方の講義全体を通して感じたことは、マスターズの先生方は私たち学生より2つの点において、ずっとアクティブであるということでした。私たちの世代は、パソコンを開いてキーワードを打ち込めば、自ら足を運ぶことをせずとも簡単に欲しい情報を得られ、さらにそれらは、国境さえも関係なく、たった13インチの世界の中で見聞が完結してしまいます。そのため、私たち学生が講義で発表する際は、“～らしいです”や、“～だそうです”という言葉が多用されます。しかし、マスターズの先生方は、実際に自分の足で見聞しているため、“～らしいです”や、“～だそうです”を使うことが無く、それ故、言葉の一つ一つに説得力がありました。そして、この説得力はアクティブな行動からしか得られないものだと考えられます。

もう一つのアクティブは、専門外のことについてです。私たちは専門外ということを経験理由にして、他の分野に目を向けることは殆どありませんが、マスターズの先生方は、専門・専門外関係なく、常に世の中にアンテナを張り巡らせて、それを自分のものにしようというアクティブさがあると感じました。上記2点については、見習っていかなければならないと思われました。

最後に、広島大学マスターズ広島が今後ますますの発展されますことを心よりお祈りいたします。

## 「学問と社会」感想文

社会科学部法政システム専攻 竹内 実緒

私は2019年度前期に、「学問と社会」を受講しました。専攻に関係なく、また、文系理系関係なく、様々な分野を、その分野を長年研究してきた先生方に教えていただける貴重な機会でした。私の専攻内容に繋がる、研究分野に関連する知識を深めることができる授



業もありました。私は刑法を専攻しておりますので、例えば社会学の授業は、研究分野を今とは違った視点から見ることができる、良いきっかけとなりました。法律学、とりわけ刑法学にのみ向いていた視点から、その他の分野にも視野を広げることで、刑法学上だけでなく社会学との関連からも問題を考えることができました。逆に、私の専攻とはまったく関係ない、理系の授業もありました。私は中高生時代から理系の授業が大の苦手で、大学に入ってから理系分野にはまったく触れておりませんでした。受講生全員が理系分野を苦手としていたこともあり、先生方は限られた時間で端的に分かりやすく授業を行ってくださいました。ですので、中高生時代と違い、苦手意識を持つことなく、楽しく授業を受けることができました。また、文系の私たちでも知っている問題を絡めた授業もあり、とても興味深く、ニュース等では報じられることのない現状を知ることができました。先生によって授業の進行方法は違い、例えば物理の放射線についての授業では実際に外に出て、地面や岩の放射線量を調べるという授業もありました。数学系の授業では、実際に計算問題を解きました。私は前述の通り理系は大の苦手なので、間違えた問題も多かったですが、実際にやってみることが楽しかったです。通常はその分野を専攻しなければ知ることができないであろう、より専門的な知識を、教養の授業で得ることができるのが、「学問と社会」の特徴だと思います。

## 2-2-3. 大学院授業科目「健康生活科学」

### 大学院授業科目“健康生活科学”をお世話して

広島大学マスターズ広島会員 井内 康輝

2017年4月からの広島大学の大学院共通授業科目の改変にもとづいて、広島大学マスターズ広島の幹事の松水先生から、東千田未来創生センターで開講する社会人大学院生を対象とする「健康生活科学」という授業科目が提案されました。しかし、東千田では社会科学系の大学院生が多く、受講生がいない可能性が大きいので、霞キャンパスの医歯薬保健学研究科医歯科学専攻の修士課程（医療系および医療系以外の学部卒業生のための修士課程）の大学院生向けに開講してほしいとの大学側の希望が寄せられたこともあって、夜間の授業時間帯（18:00-19:30）に霞キャンパスで開講することが提案されました。授業の目的は、“高齢化社会における健康生活分野の課題について講義する”として、広島大学マスターズ広島の中で協力をえられる先生方の募集が行なわれ、元総合科学部の渡邊一雄先生を科目責任者として授業はスタートすることとなりました。2017年、2018年は私を含む8名の先生が分担して15コマで実施しましたが、2019年になり渡邊一雄先生から私に科目責任者を引受けてほしいというご依頼を受け、急遽、私が代って科目責任者を務めることとなりました。2019年度からは大学院の改組を受け、“医系科学研究科”と名称が改まり、90分授業を8回行うよう計画を立てなおすこととなりました。

そこで、これまでご担当いただいてきた先生方に、2回行ってきた授業を1回にしていたくことを基本にして再調整し、2019年10月3日から11月21日の間に私を含め8名の先生方で授業を担当することにしました。受講生は、9名（中国人留学生3名、日本人6名）でした。初回の授業で、私からは授業全体のガイダンスと健康の定義や健康寿命の延長のためになすべきことを話し、後半では、現在日本では死因の第一位であるがんの診断・治療の進歩と遠隔診断技術を用いた海外への医療支援の話をしました。杉山政則先生（元薬学部）からはプロバイオティクスを利用した未病改善と予防医学について、田中春彦先生（元教育学部）からは生活の中の化学を、赤川安正先生（元歯学部）からは咀嚼嚥下と健康長寿について、渡邊敦光先生（元原医研）からは食生活の改善による生活習慣病やがんの予防について、瀬山一正先生（元医学部）からは現代の食事の問題点を、星正治先生（元原医研）からは放射線の人体への影響とリスク評価の意義について、武市宣雄先生（元医学部）のからは甲状腺癌の発生等について、を講義していただきました。

いずれも健康長寿に繋がる貴重なお話で、医療に将来携わる受講生の皆さんは、直接的あるいは間接的に有意義な情報をえられたと思います。

## 食べ物と健康

広島大学マスターズ広島幹事 渡邊 敦光

食という字を分解すると人を良くすると書く。癌の原因として食事から 35%、タバコが 30%で、口ががんの元という研究者もいる。がんが臨床的大きくなるまでには約 20 年以上の年月を要する。健康な老後を過ごすためには今の食生活ではなく以前から食べている食生活を振り返るべきであろう。

1900 年代のアメリカでは一番多いのは驚くことに胃がんであった。冷蔵庫が生まれ、塩分の摂取が減少し、生野菜を食べることにより胃がんは減少した。戦後アメリカの小麦侵略より日本では米から小麦への急激な食生活の変化があり、その後日本人の癌の質は胃がんから西欧的な大腸がん、前立腺がん、乳がんが増えてきた。このような食生活は癌のみならず生活習慣病も増加している。急激な食生活の変化は他の国では見られず、食によるがんの変遷を人で実験したようなものである。一方アメリカではヘルシーピプルプロジェクトが 1980 年より始まり、皮肉なことに 1960 年ごろの日本食に替えると現在のアメリカのがんは減少している。一方日本では和食が世界遺産になったにもかかわらず未だ西欧的な食生活が続いている。

2015 年全国平均寿命では 84.10 歳で、香港の 84.84 歳について世界で 2 位である。男で 80.77 歳、女で 87.01 歳となっている。これを都道府県別にみると、男では、滋賀が 81.78 歳で最も高く、次いで長野の順となっている。女では、長野が最も高く、次いで滋賀となっている。沖縄では男性は 1985 年までは全国で第 1 位であったが、1995 年には 4 位に 2015 年は 36 位まで落ちこんでいる。女は 2005 年まで第 1 位で 2005 年は 3 位だったのが、2015 年は 7 位まで下降している。その原因はハンバーグ等の影響で肥満が増え、なお大腸がんでの死亡が増え、その結果死亡率が増加したためと考えられている。一方長野では 1990 年より平均寿命が 5 回連続して 1 位になった。しかし 2015 年では滋賀に僅か 0.002 歳の差で 2 位に下がった。食塩摂取量を減らし野菜を増やす。発酵特に味噌を食べる等の食生活の改良があったので平均寿命が延びた。すなわち、和食にすることにより平均寿命が延びたと考えられている。今年の 2 月に沖縄に行ったが、県民は平均寿命を昔に戻そうという運動が起こっていた。この沖縄化は近い将来他の県でも起こりうると考えている。今の寿命は元気な私たち年寄りが支えていると思われる。

早く日本人の昔の食生活、すなわちご飯と味噌汁のような和食に戻し、いつまでも健康長寿でありたいと考える。

## 放射線と健康影響

広島大学マスターズ広島会員 星 正治

「広島大学マスターズ」では、教養教育の「平和科目」で講義を担当させていただいております。その内容は放射線と健康影響に関する研究です。

これまで、広島大学・原爆放射線医科学研究所の在職時から現在まで、放射線と人体影響に関する研究を続けていました。専門は被曝線量構築のための研究で、被曝線量推定のため、現地に行き土壌中の放射能などを測定してきました。この研究は 1980 年からはじめましたので、もう 40 年になります。はじめは、広島・長崎の被爆者の被曝線量推定のための日米の共同研究です。その後 1991 年にチェルノブイリの事故、東海村の事故があり、放射能の測定を行ってきました。そして 1994 年から、旧ソ連の核実験場のあったセミパラチンスクの核実験場の周辺の住民について研究を開始し、現在も続けています。

さらに福島の事故もありましたが、いずれの場所でも住民は事故の事実を知らされていなかったり、あっても情報不足だったり、また国からの支援がなく不満を抱え、健康影響への不安を覚えていました。

私たちの研究は、被曝線量を評価し被曝と発がんなどの影響を明らかにし、そのリスクを求めることですが、国の専門家は信用されていなく、私たち第 3 者が説明すると安心して納得されることがよくありました。日本でも福島の事故でも東海村の事故でも同様に、住民の不信感、不安感は同じです。そんなことを経験してきたこともあり、チェルノブイリやセミパラチンスクでは、NGO のグループと一緒に現地に出かけ、超音波診断装置や薬を届ける支援にも参加してきました。

事実を解明し、それを正しく伝えることがいかに大切なことか、どの場所でも感じてきました。

放射線影響の研究は、広島・長崎の被爆者の健康影響研究がよく知られています。そこで求められた、発がんなどのリスクは住民や労働者の被曝の限度を定めています。リスクは主に放射線影響研究で求められ、国際的な機関である ICPP で議論され、日本の放射線障害防止法に取り入れられています。そして、これにより、放射線や放射能を使った労働者の被曝限度を定めたり、チェルノブイリや福島での避難区域の境界である年間 20mSv を定めたりしています。これが研究の目的です。しかし、被曝の実態を知り、住民の方に知らせ、健康を守るためにはどうしたらいいのか正しく伝えることも重要だと思っております。

さらに、セミパラチンスクでは国際チームにより研究を継続しておりますが、最近、放射能を含んだ“微粒子”には今まで知られていなかった新たな影響があることを見いだしました。問題は、それが通常の被曝より 20 倍以上も大きいことです。このようにまだまだ未解明なこともあり、今後も研究を継続していく考えです。

おわりに、マスターズの担当する「平和科目」でも引き続きその意味と生活への関わりを講義していきたいと思っております。また、この分野では一般市民への説明も意義があ

ることと思っております。マスターズではそういった活動をさらに活発にされ、今後ますます発展されるようにと願っております。

### 「健康生活科学」の状況

広島大学マスターズ広島幹事 於保 幸正

「健康生活科学」の授業目標は、「高齢化社会における健康生活分野の課題について講義する」とシラバスに記載されています。2019年度の授業実施に参加された担当者とそのテーマは以下のようです。

	担当者	テーマ
1	渡邊敦光	高齢化社会における健康生活
2	瀬山一正	現代食の問題点
3	渡邊敦光	腸上皮化生
4	瀬山一正	食を通じた痛風の予防法
5	渡邊敦光	日本人の食生活の変化
6	渡邊敦光	食生活の改善による生活習慣病やがんの予防
7	田中春彦	生活の中の化学 一身の安全と健康の問題を中心に
8	不開講	
9	碓井 亜	加齢と男性ホルモン
10	星 正治	放射線の人体への影響とリスク評価の意義 ー放射線の基礎と広島・長崎の被曝線量調査
11	星 正治	放射線の人体への影響とリスク評価の意義 ー世界の被曝とその調査ーセミパラチンスク、チェルノブイリ、マーシャル諸島、福島などー
12	武市宣雄	甲状腺癌：発生、増殖と予後 そして 放射線関連甲状腺癌
13	武市宣雄	甲状腺機能と甲状腺癌、治療と予防を含めて
14	井内康輝	がん検診についてーがんとは何か。がん対策の現状ー
15	井内康輝	がん検診についてーがん検診の有用性。がん対策の課題と将来像ー

また、2017年度からこの3年間の受講者は以下のようです。

	2017年度	2018年度	2019年度
受講者数	7	7	10

## 2-3. 生涯教育支援および若年層教育支援

本会は活動の目的のひとつに「地域社会への貢献」を掲げており、社会連携活動として、NHK 文化センターの講座を担当しています。また、テレビ新広島(TSS)文化大学の講座も担当しました。

### NHK 広島文化センター 「宇宙」 講座

元理学研究科・宇宙科学センター 大杉 節

NHK 広島文化センターからマスターズ広島に、宇宙関連教養講座開設の依頼がきたと、代表の植木さんより連絡があったのは2013年の夏だった様に記憶している。「宇宙関連教養講座となれば、元広島大学宇宙科学センター長の君しかいないよ」と御指名でした。宇宙科学センター設立の経緯から、2008年3月末の理学研究科定年後も特任でセンター長を継続していたが、国立天文台から新しい教授を迎え、後任センター長を託したのを機会に、社会貢献活動に力を入れようと考えていたので、喜んで引き受け2013年後期、10月から講座を開始した。

始めるにあたり講座内容の方針にかなり迷った。講座名に「宇宙」とあれば、宇宙にロマンを感じる「ロマン派ファン」が集まるのだろうか？ロマン派ファンに喜んでいただく話はサイエンスからはいささか離れてしまいそう。科学者の端くれとしては真実追及こそが意味あると考えている私には、真実を離れてロマンと夢を語るのには抵抗がある。しかし科学的データ及び厳密な理論を解説する場ではない事もよく承知している。この兼ね合いを模索し、宇宙科学をいかに楽しく理解していただくかに腐心した6年間であった。

最初の6か月コースの講座名は宇宙のロマンを感じさせるものではなかったが受講者は10人を超える数で驚きだった。6か月後、2回目のコースでは初回の半分以下だろうと予想したが、半数は続けて受講希望者で新規の受講者を加えて10人近くの受講希望者がいた。継続受講者がクラスを中心だったので、話題は広げて宇宙全体をカバーするように心がけた。以後、6年間継続しており、中には初回から欠かさず受講している方もいらっしゃる。新規受講者とレギュラー受講者との両者に興味ある話題を用意するのはなかなか大変だ。

現在の講座課題名は「我々を育む絶妙に調整された宇宙」だ。この演題には私の宇宙物理の研究・観測に対して持っている哲学と動機が含まれている。私は最初に素粒子実験物理学の学徒として出発した。4年生の卒業研究を行う研究室として配属されたのが、新しく出来た素粒子実験の研究室だった。当時まだ日本物理学会の中に素粒子実験の分科会ができていない様な新しい分野だったが、全国の大学の同じ分野の先生方が協力してとても前向きに学生指導をしておられた。ここで研究の魅力と、我々を作る物質の素、素粒子が、いかに単純で美しい法則に従い、物質世界を作り上げているかを教わった。この活気ある

研究分野に憧れ、情熱的な先生方に導かれ、研究者の道に入った。この時点では、素粒子を支配する基本法則がそのまま宇宙の基本法則であると考えていたが、NASA のガンマ線宇宙望遠鏡プロジェクトに参加する時点では、「絶妙に調整された宇宙」のマクロ・スケール部分が、素粒子物理学では抜け落ちている事が気になっていた。スペース望遠鏡開発計画に参加を決めた動機は、世界で唯一のガンマ線宇宙望遠鏡開発国際プロジェクトで不可欠と思える重要な貢献ができると思ったのが第一だが、マクロ・スケールの宇宙物理に触れる絶好の機会と感じたのも事実だ。

解明すべき根本的な宇宙の謎が簡単になくならないとは思えないが、この宇宙の法則とその法則に従い進化した結果として我々が地球上に存在している。そのシナリオが解り易く説明できる程度には解ってきているので、一般の受講者を相手にいかに解り易く話すかに腐心している。

令和 2 年夏

## 男性更年期障害と健康寿命

広島大学マスターズ広島会員 碓井 亜

女性には閉経という明確な更年期の指標があるが、男性では指標に乏しく更年期の認識は乏しかった。近年、加齢に伴う男性ホルモン欠乏で起こる病態を LOH 症候群 (Late Onset Hypogonadism、遅発性の性腺機能低下症) と呼び、国際的な診断・治療ガイドラインが作成されている。

### 1) 男性ホルモンと加齢

男性ホルモンの主たるものはテストステロン (以下 T) で、日本人男性の血中 T 値は、40 歳代から低下し始め、70 歳代には 20 歳代の約半分に低下するが、個人差はある。この T 低下は、加齢による視床下部や下垂体の機能低下、血液灌流量低下による低酸素状態などが精巣のライデッヒ細胞数の減少や組織線維化を進行させるためである。

### 2) LOH 症候群の症状

LOH 症候群は、①男性ホルモン低下、②加齢、③QOL 低下、④多臓器の機能低下、が特徴で、日本では 70 歳以上男性の約 3 割、約 600 万人の患者がいると推計されている。症状は多彩で、心理的、身体的、性的の 3 つに大別される。

心理的：抑うつ、認知力の低下、睡眠障害、疲れ易い、気力の低下。中高年男性の T 低値例を追跡すると、T 値正常に比して抑うつ疾患の発症率が約 3 倍高いとの報告はあるが、T 低値例への T 補充治療によって軽い抑うつ状態は改善できたが重いものでは難しく、抑うつの原因は T 欠乏のみではない。

身体的：骨密度低下、筋力低下、内臓脂肪増加、体毛減少。血中 T 値と内臓脂肪量の関係を 7 年間にわたって追跡すると、T 値低下と内臓脂肪量増加は有意に関連する結果で、T 濃度低下を防ぐことは健康寿命の延伸に役立つ可能性がある。

性的：性欲・性機能の低下、夜間睡眠時の勃起能低下。年齢と ED（勃起障害）の頻度をみた中国の報告は、40 歳未満男性の ED の頻度は約 20%だが加齢と共に増加し、70 歳以上では殆どにあるとした結果に対して、米国医療関係者 3 万人余の性機能アンケートでは、「性行為可能な勃起を生じさせ、維持できた」と答えた人は 50 歳代 90%以上、80 歳代でも約半数にあり、高齢者でも性機能は保持されている。

### 3) LOH 症候群の診断と治療

診断は、上記症状の有無と血中 T 値測定で判断する。治療は、筋注、ゲル剤、パッチ剤、経口剤の剤型はあるが、日本では筋注のみが保険適応である。副作用として心血管イベントのリスクが増加するので安易な投与を避け、治療中には心血管イベントの有無に注意する。

我が国は、平均寿命から健康寿命を引いた、いわゆる寝たきり期間が世界一長い。これは宗教的な生への考え方や医療介護体制の差異もあろうが、我が国の課題は健康寿命の延伸でありホルモン年齢の維持にも目を向けることが望まれる。

### NHK 文化センター講師

講座名（講座内容）	講師氏名	開講期間
グルメ探訪	原田 康夫	2002 年 4 月～2003 年 12 月
ロシア語・ロシア文学他	井上 研二	2010 年 4 月～2019 年 3 月
もういちど学ぶ世界史	岡本 明	2011 年 4 月～2014 年 9 月
我々を育む宇宙の絶妙な調和	大杉 節	2013 年 10 月～現在
ギリシャ神話が教えること	植木 研介	2014 年 4 月～2015 年 3 月
岩石が語る地球の歴史	於保 幸正	2019 年 1 月～現在
死の深さ・生の輝き	古東 哲明	2019 年 10 月～現在

データは株式会社 NHK 文化センター広島教室の柏木恵子氏より提供頂いた。

### テレビ新広島(TSS)文化大学「一般教養講座」

	講師氏名	講義題目
2012(H24)年度	碓井 亜	「女と男の更年期」
	大谷美奈子	「救急医療 -熱傷、熱中症-」
	武市宣雄	「甲状腺と健康管理 -チェルノブイリと福島原発事故も加えて-」
2013(H25)年度	碓井 亜	「男と女の泌尿器がん」
2016(H28)年度	中田 高	「活断層と地震」

データはテレビ新広島事業開発部の松本展布子氏より提供頂いた。



## 2-4. 企画事業

本会は、会員相互の交流と親睦を深めることを目的として、春秋の例会を企画・開催しています。また2019年度からは、会員が「自分の専門領域をわかりやすく語る」ミニ懇話会も開催しており、これらの事業に合わせて懇親会も開催して親睦を深めています。

### 例会企画裏話

広島大学マスターズ広島幹事 植村 泰夫

マスターズ広島の活動の大きな柱の1つは会員相互間の親睦を深めることで、例会はそのために行われます。私が入会したのは2012年に退職した時ですが、その後、2015年から総務担当の幹事を引き継ぐことになりました。総務の仕事はいろいろありますが、例会の企画もそのひとつです。例会は本会が設立された2010年の秋に広大総合博物館見学で始まり、その後、11年の広大天文台見学(春)、宮島(秋)、12年広島安佐動物公園(秋)、13年広大天文台(春)、下蒲刈町(秋：蘭島閣美術館ほか)、頼山陽史跡資料館(冬)、14年己斐断層見学会(春)、15年松江しんじ湖温泉1泊2日小旅行(秋)、16年中国醸造見学(秋)、17年マツダミュージアム見学(秋)、18年御手洗(大崎上島)日帰り小旅行(秋)、19年海田町旧千葉家住宅見学・西国街道史跡巡り(秋)と続いてきました。

私が企画を始めたのは15年の松江行きからですが、さてどこにしようかと考え始めた時に、はたと困ってしまいました。というのも、初めて広島に来たのは1983年に広大到任した時で、その後も宿舎と研究室を往復する毎日でしたので、広島で行くべきところといえば平和公園と宮島ぐらいしか思いつかず、土地勘も全くといっていいほどなかったからです。そんな中で松江行きは現職時代に島根大学で開かれた学会に参加し、温泉があり出雲蕎麦がおいしいこと、直通バスで簡単に行けることがわかっていたので、思い切って決めました。参加者は少なく4名で、宿は簡単に見つかるだろうと思っておりましたがどこも一杯で、やっとビジネスホテルを4室確保できてホッとしたことを覚えています。幸い部屋に温泉が引かれており、また偶然にも「食ベログ」で1位と2位の蕎麦屋で昼食をとることができました。

その後も行き先探しにはずいぶん苦労しましたが、インターネットで近隣市町村の観光案内を調べたり、テレビの地元紹介番組(例えばRCCの「元就」など)を毎週見たりして、候補地を選びました。幹事会に提案してボツになった候補も、いくつかありました。でも幸いなことに、これまでは参加者の皆さんには満足いただいたようで、いずれも楽しい例会になりました。他に広島造幣局、オタフクソース工場、造船所見学なども候補として検討してきましたが、この企画が今後も長く続き、多くの皆さんが参加されることを願っております。

## 2-4-1. 例会

東広島天文台・かなた望遠鏡で見る宇宙 –マスターズ広島の春の例会 2回–

元宇宙科学センター長 大杉 節

広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台の「かなた望遠鏡」で星をみる観望会を、マスターズ広島の行事として2度行った。かなた望遠鏡は、国立天文台がハワイに建設したスバル望遠鏡のサポート望遠鏡として作られ、すばる望遠鏡に設置される観測装置の完成テストに使用されていた有効口径 1.5mの反射望遠鏡である。ほぼ役目の終わった2005年に広島大学が譲り受け、新しい制御装置を装着の上、2006年5月に東広島市三永、福成寺隣の山頂に東広島市が天文台公園を作り、その中に広島大学が敷地を借りて天文台を作ったものである。この望遠鏡を広島大学が国立天文台から譲り受け天文台を作るに当たっては、可視・赤外線天文コミュニティー、国立天文台、東広島市等の、広い範囲にわたり多くの方々の力強い支援を受けた。当時広島大学学長であった牟田泰三氏の広島大学に天文台を作りたいという強い希望が決め手であったことは言うまでもない。私の役割は、可視光赤外線天文コミュニティーに、突発天体観測専用望遠鏡を持つ天文台を作る意義、広島大学がその天文台を運用するに相応しい陣容と体制を整え、ガンマ線宇宙望遠鏡との連携観測等で新しい方向の成果を期待できることを理解していただく活動、及び天文台、望遠鏡観測適地を探す事であった。NASAのガンマ線宇宙望遠鏡開発国際共同計画では、私を中心に広島大学が日本のチームを率い、望遠鏡のキーエレメントであるガンマ線センサーを開発設計する重要な役割を担っていた。従ってこのチャンスに最大限の学術的成果を勝ち取るため、従来はそれぞれの観測波長望遠鏡で独自の観測研究を行っていたものを、複数波長連携で謎に迫ろうという作戦をたてた。ガンマ線で観測される天体はまだ謎の多い分野であり、高エネルギーのガンマ線を、短時間突発的に放射する現象が特徴であるが、ガンマ線観測のみでは現象の同定に限界があった。その天体同定のため、観測・解析手法が確立され、位置決定精度が優れている光赤外線光学望遠鏡との同時連携観測がとても重要であると考えた。突然起こり急速に変化し消える天体現象に対し、直ちに観測を行う専用光学望遠鏡は世界的にもユニークで、ガンマ線宇宙望遠鏡との連携でも大きな成果が期待できるとアピールし、広島大学移設を承認してもらう事であった。もう一つの副次的な目的は、新たな天文台で天体観望の機会を可能な限り設け、児童生徒や一般の方々に宇宙に関心を高めてもらう事である。その目的でかなた望遠鏡には眼視装置が新たに付加された。なお、「かなた望遠鏡」という愛称は、東広島天文台開設に際し、一般に公募した名前の中から選ばれ命名された。

2008年6月のガンマ線宇宙望遠鏡打ち上げ成功時には、かなた望遠鏡は2年間の先行で準備が十分にできた状態であったため、ガンマ線と連携多波長観測で期待通りの成果を上

げることが出来た。また国立天文台にあった当時のこの望遠鏡の役割も引き継いで新しい観測装置の試験にも活躍している。ガンマ線バースト、重力波源、ニュートリノ宇宙線発生天体等の天体同定、超新星現象等のあらゆる突発天体現象観測で活躍している。

望遠鏡は、遠くの物体を大きく見る装置と思われているが、実際は天体からくる光を出来るだけ多く集めてその光を分析し、天体で起こる現象を調べる光集光・分析装置である。しかし眼視装置で見る月のクレーターや、木星の雲が織りなす模様、土星の環等はとても美しく、自身の目で直接見ることで強い印象を得ることができる。観望会に参加していただいた方々には十分楽しんでいただいたと確信している。年2回の公募観望会や、広島市や福山市の宇宙少年団員の観望会、広島大学、広島大学同窓会、東広島市関係団体などの可能な限り多くの関係者に対し、天体観望を楽しみ、宇宙に関心を寄せていただく試みが行われている。

平成 23 年度春の例会「広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台」より



東広島天文台



セミナー室での説明、講師の大杉先生

## 蘭島閣美術館見学行

広大マスターズ広島参与 金田 晋

自分たちの住む地域を知ろう。退職してできた時間的余裕を活用して、市民たちの地域に生きる工夫と努力に触れてみよう。私たちは積極的にそのような見学旅行を企画してきた。

その見学旅行の一つとして、私が名誉館長の蘭島閣美術館に来ていただいたことがある。この日はお迎えする立場でもあった。野呂山の展望台にあがると、眼下にたくさんの島影の点在する美しい瀬戸内海が広がる。そこから七つの橋で島伝いにのびてゆくとびしま海道が見えてくる。美術館のある下蒲刈島はその取っ付きの島で、江戸時代には浅野藩の海の応接間であった。海上交通の要衝で、朝鮮通信使等の寄港地としても知られた。美術館

は純和風の木造建築で、近代日本画と洋画を網羅する玄人好みのコレクションで知られている。

見学は2013年秋。本会「News Letter」第12号では、10月23日（水）11:00-15:30とある。私と当館学芸員の吉川昌弘（広大教育学部卒）がガイドをつとめた。身内でもあり、和気あいあいの一刻であった。

その期間、出し物は特別企画展「独立美術協会と1930年代の美術展」であった。「独立」は1930年に結成され、日本の油彩画界を牽引してきた公募団体展である。広島はその重要な拠点であった。戦中、戦後呉を拠点にして中央画壇で活躍した宇根元警もいた。文学部の事務室にかけてあった大きな作品を覚えておられる方も多いただろう。一見、広島人は瀬戸内の風土に育って温和に見えるが、作家たちの作風はなかなか激しい。展覧会は隠れた広島の発見の場でもあった。

三之瀬御本陣芸術文化館も見学した。同館は「独立」の代表画家で、京都帝大で長く美術史を講じた学者画家須田国太郎の常設館としても知られる。そのコレクションを見るためだけに来島する美術通たちもいるほどだ。期間中は関連企画「1930年代の日本画—京都画壇を中心に—」が開催されていた。

朝鮮通信使資料館も見学した。同通信使使節団は江戸時代の海外交流の太いパイプであり、最近世界遺産にも選定され、有名になったが、独立館をもってその功績を系統的に展示しているところは全国でも珍しく、韓国でも知られている。また同じ江戸時代、西洋との文化交流の花であった陶磁器の美術館があり、ヨーロッパから買い戻した作品も含めたコレクションの企画展「伊万里の里」を見学した。

参加者は6名だった。広島市から呉線とバスで1時間以上かかる、交通の便の悪さも影響したようだ。昼食は島の魚料理に舌鼓を打ち、たのしい懇談の場もたれた。打ち上げは、海に見える白雪楼の座敷で抹茶をいただいて、解散した。好奇心の飛び交う、秋晴れの日であった。



公益財団法人 蘭島文化振興財団

(<http://www.shimokamagari.jp/> より)

蘭島閣美術館

松濤園（内部に朝鮮通信使資料館がある）



## 「己斐断層」を語る

広島大学マスターズ広島会員 中田 高

活断層は、過去数十万年の間に繰り返し活動し、将来、再活動する可能性の高い断層である。1995年の阪神淡路大地震までは、社会的にあまり注目されることはなかったが、この地震が活断層の再活動によって発生したことが明らかになったことから、俄然注目されることになった。それまでは、地震との関係にはあまり関心のなかった研究者にも、活断層の定義を「再活動して地震を発生させる断層」とする人も多くなった。広島市街地の西にある己斐断層は、安佐南区から西区にかけて北東から南西方向に約 10km の活断層である。この断層は、地形の特徴のみから活断層を認定する方法に疑いを持つ人も少ない時代に、空中写真でわずかな谷のズレに気付き私が活断層と認定したもので、1980 年に出版された「日本の活断層」に収録された。その後も、長大な断層でもなく活動の証拠を示す地形が不明瞭なために、研究対象になりにくい活断層であり、私を含め調査しようとする人は誰もいなかった。阪神淡路大震災のあとで、広島市は活断層調査費を地方交付金として受け取り、己斐断層と佐伯区にある五日市断層を本格的に調査することになった。これによって、否応無しに私の研究者としての能力が確かめられることになった。己斐上周辺では大茶臼山から流れ出した数本の谷が己斐断層を横切る場所で右横ずれ（断層を挟んで反対側の土地が右に動けば右ずれ、左に動けば左ずれと呼ぶ約束）している場所以外には、あまり良い調査場所は見つからなかった。そのため、一つの谷を選び活断層が走っていると思われる場所にトレンチ（調査溝）を掘って、若い地層を断層が断ち切っている地質学的証拠を探すことにした。谷底は土石流で厚く覆われており、なかなか断層が現れなかったが、深さ 6 m の場所で断層を確認することができた。これによって、己斐断層が活断層であることが社会的に認知されることになり、私も胸をなでおろした。この断層の長さからマグニチュード 6.5 程度の地震が発生すると予測されているが、その後の調査で己斐断

平成 26 年度春の例会「己斐断層見学会」より



参加者全員で記念撮影



己斐断層を説明されている中田先生

層はさらに北に伸びていることが分かってきたので、地震の規模はもっと大きくなると考えている。己斐断層がある場所は、かつてはのどかな農村と山林であったが、平成 26 年の春の例会で会員の皆さんを現地にご案内した折には、古い住宅が密集し団地開発が進み多くの人が生活する場となっていた。もし、己斐断層が再活動すると断層直上や近傍の建物が大きな被害を受けるとともに、軟弱地盤の上に広がる広島旧市街で大きな揺れが発生すると予測され、災害ポテンシャルは決して小さくない。遠くの大きな地震より近くの小さな地震の方が怖いこともあり、己斐断層を軽視してはいけない。

### 松江周遊記（2015 年秋の例会）

広島大学マスターズ広島 前代表幹事 井上 研二

2015 年秋の例会は松江への一泊旅行（11 月 12 日～13 日）だった。

広大マスターズ広島では会員間の交流と親睦を深めるために、この 10 年間原則春と秋の 2 回例会を開催することを目標にしてきたが、さまざまな事情から年に 1 度しか開催できない年もあった。例会のほとんどが広島大学東広島キャンパス内施設や広島市内および近隣地域にある歴史的建造物や施設見学だったが、一泊旅行が実施されたのが唯一この例会だった。松江へはこれまでもプライベートで行ったことがある人も少なくないと思われるが、広島から高速バスが運行されて便利になったうえ、温泉好きの小生が松江宍道湖温泉への旅行を発案し、植村総務担当幹事が企画して下さったものだったが、源泉かけ流しの大きな浴室や露天風呂のある温泉旅館を確保できないことが直前になって判明し、各部屋に温泉の出る浴室はあるものの、あまり立派とは言えないビジネスホテルに変更となる結果になり、またこの例会の参加者も男性は発案者の小生と企画者の植村幹事の 2 人、女性は退職まで広島大学病院で看護師や検査・研究員をされていた方 2 人の計 4 人という当初の予想を大きく下回るさびしい旅となったのは誠に残念だった。しかし、スタートはいささか落胆するものだったが、松江には見るべきもの、味あうべきものが多く、気を取り直して朝 10 時半広島バスセンター発の高速バスで出発した。約 3 時間後に松江に到着、少し遅くなった昼食はスケジュール通り、「食ベログ」では人気ナンバーワンのそば屋で舌鼓を打ち、しばし休息を取ったあと、小泉八雲記念館、史跡八雲旧居、それに国宝に指定されたばかりの松江城を見学して回った。この日は天気にも恵まれて最高の見学日和となつて充実した一日となった。

二日目はスケジュール通り、朝からモーター付き和船での「堀川めぐり」に出かけた。乗り降り自由の 1 日乗船券を買って乗船、まずお城の東側にある松江歴史館を見学した。武家屋敷を模して建てられたこの博物館には、松江の歴史が詳細に展示されており、われわれは大変興味深く見学することができた。続いて再び船に乗ってお城を周遊する頃から雨が降り出し、かなり寒さを感じるようになってきたので、船に備え付けられた炬燵は冷

え切った体が芯から温まり有難かった。昼食はまたそば屋だったが、この店も前日のそば屋に続いて「食べログ」ナンバー2 の人気店だった。昼食後、小雨交じりのあいにくの天気だったけれども、今度は武家屋敷を見に行った。ここは約 270 年前の中級藩士の屋敷で小泉八雲旧居よりは部屋数も多く、簡素な造りとはいえ、広い庭を備えた立派な住居だった。その後、再び船に乗って出発した乗船場に戻り、街中を徒歩で「宍道湖温泉バス停」まで戻り、前日の逆コースで広島へ帰着するという旅であった。(広大マスターズ広島ホームページの植村泰夫「2015 年秋の例会：松江への一泊旅行」参照)

この企画は先にも述べた通り、最初に小生が思い浮かべた「温泉旅行」とはならなかったが、「松江周遊記」としてはまずまず成功だったと評価できるのではないだろうか。わが広大マスターズ広島より数年前に発足した広大マスターズ（東広島）はこれまで「一泊国内旅行」どころか、数日にわたる海外研修旅行まで成功させていることから、この企画を考えたのだが、参加者があまりにも少なかったことに正直、失望した。これに懲りてその後 4 年あまりは「近場」ばかりの例会が続いているが、「近場」は「近場」で周知の場所や施設しかなくなっている。「カネのかかる遠距離への旅」は歓迎されないのだろうか。

平成 27 年秋の例会「松江への一泊旅行」から



松江城での参加者の記念写真

史跡小泉八雲旧居



バタンコから RE そして EV へ —原爆の惨禍を乗り越えた地元企業—

広島大学マスターズ広島幹事 鈴木 盛久

広島大学マスターズ広島恒例の例会として、平成 29 年秋には広島市南区宇品の「マツダ」の見学ツアーが実施され、その記録・報告を担当しました。

ご承知のように、「マツダ」は、今年創業 100 周年を迎え、また「2020 年 World Car Design

of the Year」にマツダ3が選ばれるという、地元を代表する企業です。人気の見学ツアーということで、当日は多くの参加者が集まり、本会からも12名の方が参加され、貴重な時間を共に過ごすことができました。

見学ツアーでは、90分間で「マツダミュージアム」及び隣接する宇品第一工場内を見ることができ、広島の地で生まれた「マツダ」の歩みを、時代背景とともに一目瞭然に学ぶことができるよう工夫されていました。まず、1931年に初の自動車として生産開始され、広島の戦後復興を支えた3輪トラック（バタンコ）に迎えられ、次いで1960年製造初の乗用車 R360 クーペ、1962年製造の キャロルなど、懐かしい往年の名車たちも並び、まるでタイムスリップしたようでした。続いて、「マツダ」が誇るロータリーエンジン（RE）について紹介されており、1967年製造の初のRE搭載車 コスモスポーツ、1991年のル・マン24時間耐久レースで国産車初の総合優勝を達成したレーシングカー787Bも目の前に並んでいました。さらに、主力車種の1つであるCX-5を例に、クルマづくりの製造工程について学んだ後、宇品第1工場（U1）組立ラインでは、実際にロボットと2交代800人の熟練者によって、次々とクルマが組み立てられていく重要な心臓部を見学する機会も得ました。最後に、EVをはじめとした最新のコンセプトカー展示をもとに、環境と安全に配慮した次世代クルマ社会についても学びました。

創業者の松田重次郎（1875-1952）は、偶然にも、原爆投下当日がちょうど古希の誕生日にあたり、安芸郡府中町の本社に出勤途中、南区西蟹屋町付近で被爆したものの、無事だったそうです。一方、建物疎開で中区に動員されていた社員の多くを失いましたが、重次郎は会社の再建を通して、焦土と化した地域の復興に尽力し続けました。

因みに、南区比治山公園南東端にある汐見台には、重次郎のブロンズ像がマツダ本社のある東方を望んで立っています。圓鏝勝三作の高さ4mの堂々たる像で、顕彰銘文の揮毫は、広島大学の森戸辰男初代学長の手になるものです。

例会への参加を通して、地元で生まれ、原爆の惨禍を乗り越え、世界に飛躍するに至った企業の代表としての「マツダ」、その存在の大きさを再認識する機会を得ることができました。

## 平成29年度秋の例会「マツダミュージアムの見学」



参加者全員で記念撮影（マツダ本社前）



技術展示エリアの見学



## こんにちは、御手洗

広島大学マスターズ広島幹事 渡邊 敏正

2018年11月22日、少し風の強い肌寒い日であった。「回漕店」前の停留所、61年ぶりの御手洗（みたらい）に降りた。島嶼部勤務の学校教員であった両親のもと、この地で生まれ、小学一年生まで過ごした。

御手洗は愛媛県との県境、大崎下島の東端に位置し、古い港町の風情を色濃く残している。当時は、船で広島へ4時間、呉は3時間、四国今治に1時間であった。今は、広島バスセンターから約2時間半である。バスは島の周囲を巡って多くの停留所を持ち、橋を渡って次の島へと進んでいく。時間はかかるが、住民の生活を支えている。

例会は8名の参加であった。近くの食堂で昼食をとり、史跡巡りをはじめた。潮待ち館（豊町観光協会）を始点・終点として、天満宮、蛭子神社、住吉神社という3つの神社が時計回りの散策巡路のキーポイントになっている。まずは菅原道真ゆかりの天満宮。近くの金子邸の内部は見学できなかったが、そこから若胡子屋跡、新光時計店、乙女座（映画館・劇場跡）を経て蛭子神社に着く。若胡子屋は私にとっては「おはぐる屋敷」であり、今も残る大きなステージの上には発表会での内裏雛姿の自分を見る。蛭子神社から海岸に沿って進み、途中、大東寺の巨大な樟の樹を見上げ、船宿跡を覗き、数百メートルで住吉神社に至る。神社の手前に船への標であった高灯籠、横には石造りの波止場が見える。先端部分と灯台は近年の台風被害後に再建とのことであるが、残り大半は江戸時代以降の石工の技を見せる。私が住んでいた家は住吉神社から数十メートルのところのところに当時の姿で立っていた。ここを背にして旧御手洗小・中学校まで見通す。今は校庭と石垣が残る跡地で、石垣の上で背後の崖にへばりつくように建っていた校舎はもうない。次は満舟寺。旧海岸線を示すその石垣に沿って進むと、潮待ち館と天満宮の分かれ道に出て、巡路一周となる。伊能忠敬が泊った旧柴屋に立ち寄り、潮待ち館に戻る。



平成30年度秋の例会

「御手洗への日帰り小旅行」

記念撮影（御手洗、潮待ち館前）

金子邸が御手洗条約締結の地、蛭子神社にある七卿落遺跡、波止場が江戸時代から、などはずっと後に知ったことである。「てんじんさん」「えべっさん」「すみよっさん」と叫びながら駆け回る面影を追いながらのゆったりとした2時間余の散策であった。新光時計店の老主人松浦さん、観光協会長であった尾藤さんはいずれも幼稚園、一年生を共にした。再訪して挨拶する機会を持ちたいと思っている。



高燈籠



旧木村家・北川家住宅（船宿跡）

## 2019 年度秋の例会「海田町の旧千葉家住宅見学および西国街道史跡巡り」

会報「2019 年度秋の例会の開催報告」（2019 年 11 月 28 日発行）から転載

旧千葉家住宅は、JR 海田市駅から徒歩数分のところに位置してアクセスが良く、江戸時代から流通、物作りなど重要拠点としての役割を担ってきた家屋内部を無料で見学できる。また、その周辺の散策にちょうど良い範囲内に西国街道の史跡が散在している。

今回の例会で、海田の宿駅としての機能を旧千葉家と街道沿いの旧跡を通して垣間見ることができた。広島市という都市の直近にあって、海田が江戸時代の面影を残していることに少なからず驚かされた。また、旧家が何百年も継続して地域の重要な役割を担ってきたことも感じ取れた。

史跡巡りを終えて、懇親会では、今後の会の活動に関する話題から実家の片付けや墓終いなど年齢相応の切実な悩みまで、公私に亘る話題で親睦を深めることができた。

（広報担当幹事 圓山 裕 記）



参加者全員で記念撮影  
（海田町、熊野神社にて）



旧千葉家住宅、主屋・座敷の床の間



泉庭



例会後の懇親会（居酒屋「三代目網元さかな屋道場」にて）

## 例会の参加にことよせて

広島大学マスターズ広島会員 長尾 真理子

例会には時々参加させていただいております。このような企画は準備等も大変です。ありがたい事と思っております。まず、御手洗（大崎下島）小旅行では、穏やかな海、みかんのオレンジとグリーンのコントラストの美しさ、それにボ〜ッとブラブラ、リラックスできる街並や静けさに満足しました。その後、二度も尋ねることに。一度は、乙女座での『御手洗歴史シンポジウム』の参加と『新光時計店』です。倒幕・維新の幕末史における広島藩の役割や活躍のこと、身近な地域の歴史について振り返る機会でした。また、最近数少ない修理ができる時計屋さん（テレビでも紹介された記憶があります。）では修理のお尋ねもしました。親切で感じ良いお店です。二度目、平成31年春には、『旧金子家住宅の茶室』で保存修理が終わった記念茶会がありました。（前年秋の例会の時には工事中でした。）江戸後期文政年間、当地の豪商だった金子家が建てた商人宅に設えられた武家茶室です。三畳台目と呼ばれる間取り、窓を多くとり、庭には立踳踳があります。お茶室とあれば覗き見したくなるのです。「浅野氏広島入城400年記念」に関連して、この期間いろいろな催しが開かれたようです。広島から安芸灘とびしま海道へのんびりバスでドライブ、

景色は最高です。当日参加できなかった方にもお薦めです。また、マスターズ広島発足間もない秋の例会『厳島神社宝物館・宝物収蔵庫の見学』では貴重なものを見せていただきました。通常は見る事ができない資料なので手続き等々ご尽力いただいたことと思います。工芸品やお茶道具など、宮島彫りと琵琶の取り合わせをよく目にしますが、何故と想っていたことの気づきもありました。例会では、私にとってささやかな納得やひらめき、きっかけをいただいております。何らかの貢献もしないで、稽古などもなくて自分の都合よい日に、気楽な参加者をさせていただき感謝いたしております。

### 例会リスト

例会	開催日	活動、見学先など
平成 22 年度秋	2010 年 10 月 9 日	広島大学総合博物館の見学
平成 23 年度春	2011 年 4 月 24 日	広島大学宇宙科学センター 附属東広島天文台 (観望会)
平成 23 年度秋	2011 年 11 月 8 日	厳島神社宝物館・宝物収蔵庫、宮島水族館の見学
平成 24 年度秋	2012 年 11 月 13 日	広島市安佐動物公園の見学と散策
平成 25 年度春	2013 年 4 月 27 日	広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台
平成 25 年度秋	2013 年 10 月 23 日	蘭島閣美術館の見学会
平成 25 年度第 3 回	2013 年 12 月 15 日	頼山陽史跡資料館の見学
平成 26 年度春	2014 年 4 月 26 日	己斐断層見学会
平成 27 年度秋	2015 年 11 月 12-13 日	松江しんじ湖温泉への一泊旅行
平成 28 年度秋	2016 年 11 月 15 日	中国醸造見学会
平成 29 年度秋	2017 年 11 月 14 日	マツダミュージアムの見学
平成 30 年度秋	2018 年 11 月 22 日	御手洗 (大崎下島) 日帰り小旅行
2019 年度秋	2019 年 11 月 11 日	海田町の旧千葉家住宅見学および西国街道 史跡巡り

## 2-4-2. ミニ懇話会

### ミニ懇話会の誕生

広島大学マスターズ広島幹事 植村 泰夫

2019年のある土曜の午後、2時から始まる幹事会の前にたまたま元理学部のM先生とおしゃべりをしていた時、この先生が「自分の専門は物理で、同じ専門の人たちの考え方は大体わかるが、他の専攻の先生方が何を考えているかよくわからない」といったことを漏らされました。確かに歴史学が専門の私にも、幹事会で議論をしていて理系の人たちと発想が違うな、という感があったのですが、それが何なのかはよくわかっていなかったと思います。われわれの会にはさまざまな業務、専門を経験した人々が退職後に参加してくるわけで、少しでもそのギャップを埋めてお互いがよく理解できるようになりたい、こうした考えにもとづいて2019年の会員総会で新しい方針として決められたのが、この「ミニ懇話会」です。本会の会員が「自分の専門領域をわかりやすく語る」小規模な会を年に数回開き、後で懇親会を楽しもうというもので、堅苦しくならないように、話は「報告」ではなく「話題提供」としてお願いしようとしています。

これまでに昨年7月に「インドネシア史研究と私」(話題提供＝植村：元文学部)、本年1月に「お味噌の効用」(渡邊敦光会員：元原医研)と2回開催されましたが、参加者はいずれも10名前後、終わった後の懇親会も大いに盛り上がりました。私が初回を担当したのは、この企画の「言い出しべー」だったからですが、自分の研究をそれを選んだきっかけから始め、現在進行中の研究内容に至るまで、簡潔にわかりやすく話すことは意外に難しく、予定時間をかなりオーバーしてしまいました。自分の専門を語り始めると際限がなくなる悪い癖が出たようです。でも、参加者のO先生に「わかりやすかった」とお褒めいただき、ホッとしました。第2回の渡邊先生のお話は全く未知の領域でしたが、理系の研究の手続きの一端がわかった気がしました。味噌が健康に如何によいかという内容は、毎日、野菜たっぷりの味噌汁を3食飲んでいる私にとっては、我が意を得たりという気分でした。なお、これらの会の中味は、「広島大学マスターズ広島」ホームページの「例会などの案内と報告」欄に掲載されておりますので、ご覧いただければ幸いです。

現在、残念ながら新型コロナのため、次回の準備ができずおりますが、たいへん楽しい機会ですので、多くの会員の皆さんが「話題提供者」として、また聞き手として参加していただきたいと願っております。

## 第1回ミニ懇話会『インドネシア史研究と私』

日 時：2019年7月27日(土) 16時30分～17時50分  
場 所：東千田未来創生センター・ミーティングルーム 4-6  
講 師：植村泰夫先生(元文学部教授)  
題 目：「インドネシア史研究と私」  
参加者：10名

第1回ミニ懇話会では、この企画の提案者である植村泰夫先生(東洋史)によるインドネシアの農村における経済と交易に関する歴史的研究について、ご自身の現地調査での思い出や文献研究のご苦労なども含めてお話を伺うことができた。

まず、インドネシアの地図を示しながら、配布資料を用いて国土、気候、人口、言語・民族、宗教、政治体制、経済について紹介された。近年の発展が著しいインドネシアだが、私達はその地理と歴史、社会と文化など知らないことが多いと感じた。そして、先生の著書「世界恐慌とジャワ農村社会」(勁草書房、1997年)を拝見しながら、ご研究の動機と目的、研究の方法と経緯および成果などについてお話を伺った。

インドネシア史研究では、オランダ植民地時代から20世紀前半までのジャワ農村社会の変遷について、オランダ語の同時代史料に基づく分析に集中したこと、特に、第一次世界大戦期の1910年代から世界恐慌期の1930年代にかけての糖業プランテーションの不振による農村社会の変質を研究したことを強調された。史料収集では、オランダの国立文書館などで膨大なオランダ語史料のコピーを作成入手されたそうで、「体力勝負の歴史学」と言って笑いを誘った。その後の研究では、インドネシアの主要5島からなる広大な領域から外に向かっての流通と「多様性の中の統一」という国民統合に向けた経済的基盤の形成過程に興味関心が広がっていったとのことであった。

先生は、少年時代のNHKの番組「特派員報告」による宗教と文化への興味から東南アジアへの関心をいただき、これが大学での東洋史志望につながったとのことである。「インドネシア近世の経済に関する歴史研究では、糖業とジャワ農村社会の関りについてオランダ語の文献史料に基づく分析が不可欠だ」と先生のこれまでの経験に裏打ちされた指摘があった。今後は、第一次世界大戦期の研究やオランダ語文献の翻訳、ジャワ村落論などを継続して議論していくつもりである、と先生の「これから」について言及された。

講演終了後、専門が異なる参加者から様々な質問が寄せられた。例えば、世界恐慌期の経済構造と混乱、砂糖価格の暴落による農村の疲弊、「貧困の共有」という村落共同体の原理、糖業プランテーションと米作の拮抗などについてである。また、海洋国家の交易と安全保障、ヨーロッパ・アジア間の経済摩擦、恐慌期日本の農村の疲弊と大陸経営なども話題になった。

以上、植村先生の長年の研究成果に基づいた興味深い話題が提供され、実に有意義な時間を共有する機会となった。本会の趣旨に叶ったミニ懇話会になったと思われる。懇話会の後、鷹野橋の「かなり屋」にて懇親会を行い、引き続き世界恐慌期日本の政治と経済の話題で大いに盛り上がった。  
(広報担当幹事 圓山 裕 記)



講師の植村泰夫先生



ミニ懇話会の参加者



ミニ懇話会後の懇親会（かなり屋にて）

Home-Page「例会などの案内と報告」（2020年1月27日）  
第2回ミニ懇話会の開催報告から（転載）

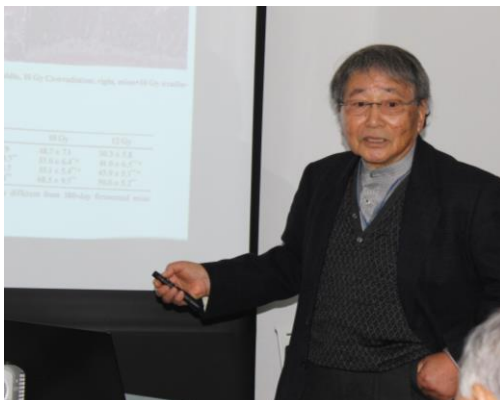
## 第2回ミニ懇話会『お味噌の効能』

日 時：2020年1月11日(土) 16時～17時10分  
場 所：東千田未来創生センター・ミーティングルーム 4-6  
話題提供：渡邊敦光先生（元原医研教授）  
題 目：「お味噌の効能」  
参 加 者：11名

第2回ミニ懇話会では、健康食品としての味噌の効能について、渡邊敦光先生の長年のご研究の成果を伺うことができた。現在、味噌に関する研究が世界中で進められており、高血圧や糖尿病、肥満などに対する予防効果、抗がん作用や放射線損傷に対する再生などの健康効果があることが分かって来ているようだ。先生が示された実験データの解析結果から味噌の効能に得心した。

渡邊先生は当初、放射線障害を受けたマウスの小腸組織が味噌を含むエサで再生することを見出された。講演では、その効果を顕微鏡画像で示されたので、素人目にも有意性があることが理解できた。先生ご自身が、驚くべき結果だったと追憶されていたが、この発見が先生の長年に亘るご研究の契機だったと伺った。普通の動物や特定の疾患を遺伝的に持つマウスやラットに、様々な条件で味噌+味噌と同じ量の塩分を含むエサを与えて、疾患発現に抑制効果があるのか、またどの程度の効果なのかを観察するものであった。そして、熟成度の異なる味噌のエサを与えて、各種のがんの発生率と腫瘍の大きさを比較・計測する実験では、がんの発生率・腫瘍の大きさが共に熟成した味噌で抑制されることも分かった。講演では、味噌は血圧を上げない、糖尿病・肥満の予防、整腸作用、がん発症の抑制効果などが示された。ご研究の第二段階は、味噌の効能を発現する有効成分を特定することであった。液体クロマトグラフィーという方法を用いた結果、熟成した味噌にトラゾリン (Tolazoline) などの成分が存在することが分かった。これには血圧を下げる効果があることが知られている。また、味噌の熟成度 (トラゾリンの量) と放射線損傷した消化管の再生量との間に相関関係があることも確認された。渡邊先生は、味噌の有効成分を特定するまでに 30 年の歳月を要したとおっしゃった。

ご講演を拝聴して、味噌の効能を実証する研究が論理的に展開されたことに感銘を受けた。疫学的な調査もさることながら、生物を扱った実験的検証の大変さを感じた。今後については、最新の実験結果を論文に仕上げることだとおっしゃった。しかし、実験動物は大変高価 (食塩感受性や脳卒中を起こす特殊なラットは 1 匹 15,000 円) だそうで、研究費が無いと研究の継続は難しく「金の切れ目が研究の切れ目」とも話された。また、戦後の日本の食習慣がアメリカ化したことによってがん罹患率が増加したが、味噌汁を摂る 1960 年代の食習慣に戻すことで、がん (乳、胃、肝臓、大腸など) の抑制効果が期待できることや、高血圧や糖尿病、肥満の防止にも役立つことを示唆された。



渡邊敦光先生



ミニ懇話会の参加者

講演終了後、専門が異なる参加者から様々な質問が寄せられた。例えば、放射線防御効果の仕組みについて、トラゾリンの分子構造の特徴について、がんの予防と攻撃のどちら



の効果なのか、豆類のイソフラボンの効果との類似性について、納豆の効能に関する研究について、味噌の効果を血液検査で直接調べることの可能性について、推奨される市販の味噌についてなど沢山の質問があった。改めて、科学的な検証による味噌の健康食品としての効能を知ることができた。

懇話会の後、紙屋町バスセンターの「源蔵」にて懇親会を行い、食と健康について「飲酒の功罪」も話題にしながら大いに盛り上がった。

(広報担当幹事 圓山 裕 記)



懇親会 (源蔵にて)

## ミニ懇話会リスト

ミニ懇話会	開催日	話題提供者と題目
第1回	2019年 7月 27日	植村泰夫 (元文学部) 『インドネシア史研究と私』
第2回	2020年 1月 11日	渡邊敦光 (元原医研) 『お味噌の効能』

新型コロナウイルス感染拡大のために、第3回ミニ懇話会の開催が延期されたままとなっている。

## 2-5. 広報活動

本会の広報活動は、総会、例会、ミニ懇話会、懇親会などの開催案内と報告、本会への委嘱講座などの事業内容とその報告、会員の近況報告などから成っている。これらの事業内容は会報『マスターズ広島 News Letter』で公開されると共に、広島大学マスターズ広島の Home-Page (<https://home.hiroshima-u.ac.jp/masters2/index.shtml>) でも閲覧できる。

本会の Home-Page は、2010 年 4 月に広島大学大学院社会科学部マネジメント専攻の椿康和教授によって、広島大学情報メディア教育研究センターのサーバー上に立ち上げられた。グループアカウントの登録、スタイルシートの作成などを経て、2010 年 5 月 1 日から正式に運用が開始された。Home-Page は、次のバーナーで示される構成となっている。

2010 年 9 月 1 日に会報『マスターズ広島 News Letter』の創刊号を発行し、2019 年 6 月までに 22 号を公刊している。この会報は Home-Page の「会報」欄で閲覧できると共に、バックナンバーをダウンロードすることもできる。また総会、例会、ミニ懇話会、懇親会などの案内と報告は「例会などの案内と報告」欄に掲載され、報告書をダウンロードできる。

トップページ
お知らせ
趣意書
会 則
入会のご案内
組織と事務局
会員紹介
事業概要
会 報
例会などの案内と報告
会員の広場
リンク集
お問い合わせ先
更新情報



**「広島大学マスターズ広島」のホームページによるこそ!**

「広島大学マスターズ広島」は、広島市在住の元広島大学教職員を中心にして設立されたもので、会員相互の交流と親睦をはかるとともに、会員がこれまで大学人として得た知識や経験を地域社会や広島大学の発展に還元することを目的にして様々な活動をしています。

社会や大学が、急速な変化の中で大きな変換を求められていることに鑑み、われわれは地域社会や大学のニーズに沿った教育研究のお手伝いが出来ればと考えています。関心をお持ちの方は、事務局までお問い合わせください。

【最終更新日】 2019年10月28日

広島大学マスターズ広島の Home-Page のトップページ (<https://home.hiroshima-u.ac.jp/masters2/>)

## 例会報告作成に関わって

広島大学マスターズ広島幹事 鈴木 盛久

広島大学マスターズ広島では、会員間の交流と親睦を深めるために、定期的に例会が開催されてきました。その中で、平成 29 年秋の「マツダ」(広島市南区宇品)と平成 30 年秋の「御手洗」(呉市大崎下島)訪問の際に、たまたま、記録・報告を担当させていただきました。

「マツダ」を社会見学で訪れるのは、広島の小学生にとっては定番となっていますが、私には初めての体験でした。記録・報告担当ということで「真面目に」見学し、案内者の言葉を聞き漏らさないようにとメモをとった当日は、まさに小学生時代に戻った感がありました。

また、「御手洗」訪問の際にも、下蒲刈島から上蒲刈島、豊島、大崎下島へと続く「とびしま海道」のバス旅を遠足気分を楽しみながらも、道中の風景や歴史遺産の見学内容、島の住民や子どもたちの様子など、気が付けば、見聞きすることを片っ端からメモしていました。

報告では、何枚かの写真を用意することになります。主な見学場所のスナップはもとより、欠かせないのが集合写真で、その撮影場所を探すのも大切になります。御手洗では、豊町観光協会の「潮待ち館」直近で、「国指定重要伝統的建造物群保存地区御手洗」と刻まれた石柱の前という格好の撮影場所に恵まれました。そこに、参加者全員の皆さんに並んでいただき、現地の方をお願いして撮っていただくことで、記念として記録することができました。

こうして、報告を意識して緊張感をもって参加したお陰で、当日、じっくりと見聞することができたのは、大変有難いことでした。

しかしながら、今、広島大学マスターズ広島ホームページ上の報告を見返しますと、貴重な見学内容を網羅できておらず、結局、プチ旅行の感想のような雑文だったと反省しています。また、見学後の懇親会では、談論風発、中身が濃く、楽しい盛り上がり、メモを取ることをすっかり忘れ、結局、その詳しい報告は欠落してしまいました。

ともあれ、例会では、普通ではできない先進企業や歴史的遺産などの見学という体験を、広大時代の異なるキャリアをもつ会員の皆さんと共有でき、実地に学ぶことの新鮮な喜びを感じながら、見学後の懇親会も含め、楽しい時間を過ごすことができました。あらためまして、総務幹事の植村先生はじめ企画・準備と実施のお世話をいただいた皆様に感謝する次第です。

新型コロナウイルス感染が収束し、例会が再開できますよう心から念じています。

## 広報担当を引き継いで

広島大学マスターズ広島幹事 圓山 裕

入会早々に若手幹事として、広報担当を引き受けることになり、会報の発行や Home-Page、Mailing-List の管理が主な役割だと知らされました。今までは ICT の恩恵を単に受ける身だったのが、管理する立場になって改めて情報発信の重要さと難しさを感じました。担当業務の引継ぎに際して、松水先生から説明書やマニュアル類を頂いたのですが、ICT 管理の実際を知らない者には未踏の領域でした。

とにかく、大学側の窓口である校友会の担当者に挨拶に伺い、情報メディア教育研究センターへの管理者（実際には副管理者）登録の手続きをして、管理者としての作業内容の説明を受けました。私にとっては初耳の幾つかのアルファベットの略称とその操作手順にお手上げの状態だったのですが、センター技術職員の方の丁寧なアドバイス（実は具体的な操作もして頂いた）によって滞りなく引継ぎが完了しました。渡邊敏正幹事（元センター長）の助言と周旋の効果は絶大でした。

本会の目的は、会員相互の交流と親睦を図ると共に、活動内容の発信を通して広島大学と地域社会の発展に寄与することとされています。ICT によって、情報の速報性に加えて画像や動画による多角的な情報交換が双方向で可能となっています。しかし、その様な機能を駆使することができるのか、またそれが本会の広報に必要なのかも分かりません。ところが、新型コロナウイルス禍の蔓延によって、図らずも、三密を避けるために、幹事会の議論をメール審議で行ったり、対面授業からオンライン授業への移行が求められたりしています。ICT の活用が拡張されることで、本会の活動および広報も大学や社会のニーズに沿うものに成って行くと思われれます。まずは会員相互の交流を促進するために、例会やミニ懇話会などに参加して頂くことを願いつつ、広報が ROM (Read Only Member) から ICM (Interactive Communication Member) への展開の場となるように努めたいと思います。コロナ禍のために創立 10 周年記念事業が中止を余儀なくされましたが、これを ICT 活用の好機と考えたいと思います。

広島大学マスターズ広島 会報一覧

号数	発行年月日	主な内容
No.1	2010年 8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表幹事からのご挨拶</li> <li>・設立総会及び懇親会の開催状況</li> <li>・「秋の例会」開催のご案内について</li> <li>・広島大学の教養コア科目の「平和科目」の担当について</li> <li>・本会のホームページのご案内について</li> <li>・広島大学校友会に団体登録</li> <li>・会報「マスターズ広島 News Letter」の発行について</li> <li>・会員の拡大についてご協力をお願い</li> </ul>
No.2	2010年 10月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「秋の例会」の開催報告について</li> <li>・広島大学から依頼のあった「平和科目」開講案について</li> <li>・広大マスターズ企画のロシア旅行のご案内について</li> </ul>
No.3	2011年 1月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「年頭にあって」代表幹事 渡邊一雄</li> <li>・中国からの留学生に対する研修会の講師の斡旋依頼について</li> <li>・NHK 文化センター広島教室からの講師の斡旋依頼について</li> <li>・広島大学から依頼のあった「平和科目」の開講要領について</li> <li>・広大マスターズ企画のロシア旅行のご案内について</li> <li>・春の例会として広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台の見学会を開催予定</li> </ul>
No.4	2011年 5月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度春の例会の開催報告</li> <li>・広島大学の教養科目「平和科目」の開講について</li> <li>・「広島大学マスターズ」企画のロシア旅行の中止について</li> </ul>
No.5	2011年 10月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の例会の開催のご案内</li> <li>・第5回広島大学ホームカミングデーの開催のご案内</li> <li>・第2回総会・交流会の開催状況について</li> <li>・日韓理工系学部留学生向けの予備教育授業の担当について</li> <li>・外国大学の日本への留学希望者向けの夏期特別研修事業の授業担当について</li> <li>・広島大学の教養教育科目「平和科目」の授業担当について</li> <li>・会員のデータベースの作成について</li> </ul>
No.6	2011年 12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回広島大学ホームカミングデー懇親会における代表幹事による活動紹介について</li> <li>・秋の例会の開催報告について</li> <li>・広島大学マスターズ(東広島)の学長表彰の受賞について</li> <li>・日韓理工系学部留学生向けの予備教育授業の担当について</li> <li>・広島大学の教養教育科目「平和科目」の平成24年度の授業担当について</li> <li>・ホームページでの会員紹介の情報提供について</li> <li>・会員の異動について</li> </ul>
No.7	2012年 5月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所感「ある願いー広島大学慰霊碑をめぐって」</li> <li>・広島大学の教養教育科目「平和科目」の平成24年度の授業担当について</li> <li>・随想「まだまだやれることがありそうだー初年度「平和と人間」を終わって」</li> <li>・TSS 文化大学の一般教養講座の開講について</li> <li>・退職された教職員への入会案内の送付について</li> <li>・事務局幹事の増員について</li> <li>・会員の異動について</li> </ul>
No.8	2012年 10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の例会の開催のご案内</li> <li>・第6回広島大学ホームカミングデーの開催のご案内</li> <li>・第3回総会・懇親会の開催状況について</li> <li>・会員の異動について</li> <li>・新規役員について</li> <li>・広島大学の教養教育科目「平和科目」の授業担当について</li> <li>・外国大学の日本への留学希望者向けの夏期特別研修事業の授業担当について</li> <li>・日韓理工系学部留学生向けの予備教育授業の担当について</li> <li>・TSS 文化大学の一般教養講座の開講について</li> </ul>

No.9	2013年 3月1日	・代表幹事就任のご挨拶
		・平成25年春の例会の開催について
		・平成24年秋の例会の報告
		・平成24年度退職者の本会への勧誘について
		・平成25年度の平和科目の担当者について
No.10	2013年 7月25日	・平成25年度(第4回)総会・懇親会・2次会の開催について
		・平成25年度(第8回)広島大学マスターズ総会と懇親会に出席して
		・平成25年度春の例会の報告について
		・会員の異動について
No.11	2013年 9月18日	・平成25年度秋の例会(蘭島閣美術館見学会)の開催案内について
		・平成25年度(第4回)総会・懇親会・2次会の開催状況について
		・知的人材育成センターの教育・研究プロジェクト事業の公募への応募について
		・会員の異動について
No.12	2013年 12月21日	・平成25年度第3回例会「頼山陽史跡資料館」の見学及び懇親会の開催状況について
		・平成25年度秋の例会(蘭島閣美術館見学会)の開催状況について
		・会員の異動について
No.13	2014年 5月12日	・平成26年度春の例会(己斐断層見学会)の開催状況について
		・広島大学知的人材育成センターの教育・研究プロジェクト事業の公募に、本会から申請した「広島大学マスターズ社会連携講座」が採択された経緯について
		・広島大学マスターズ社会連携講座」の開設方針について
No.14	2014年 9月15日	・平成26年度(第5回)総会・懇親会の開催状況について
		・広島大学マスターズ(東広島)の平成26年度総会・懇親会に出席して
		・第8回広島大学ホームカミングデーについて
		・広島大学古本募金について
No.15	2015年 7月21日	・第6回総会・懇親会の開催について
		・広島大学マスターズ企画研修旅行について
		・役員交代について
		・会員異動について
No.16	2015年 10月6日	・秋の例会の開催のご案内
		・第6回総会・懇親会の開催について
		・東千田未来創生センターにおけるマスターズの事業計画について
No.17	2016年 2月2日	・平成27年秋の例会の開催報告
		・松江小旅行記 総務担当幹事 植村泰夫
		・広島大学マスターズ企画の海外研修旅行の開催案内
		・メールアドレスのご連絡のお願い
No.18	2016年 6月30日	・東千田未来創生センターにおけるマスターズの事業計画について
		・教養教育「平和学」講師への参加のお願い
		・平和科目講義に参加しての記
		・『日韓留学生予備授業の担当者』の交代要員について(お願い)
		・平成28年度広島大学マスターズ総会・懇親会に出席して
・第7回総会・懇親会の開催について(予告)		
No.19	2016年 12月20日	・2016年秋の例会報告
		・「東千田未来創生センター」における本会提案の事業計画について
		・第7回総会・懇親会報告
		・訃報
No.20	2017年 9月16日	・第8回総会・懇親会報告
		・本会のホームページなどの管理者の移管について(報告)
		・「会員の広場」開設について(お知らせ)
		・会員異動

No.21	2018 年 10 月 30 日	・「Special Professor 問題」への対応について
		・第 9 回総会・懇親会報告
		・iPhone、iPad のブラウザによる本会のホームページの文字化けについて
		・会員異動
No.22	2019 年 6 月 25 日	・第 10 回総会・懇親会報告
		・本会の広報とホームページの管理について(報告)
		・広島大学マスターズ第 13 回総会
		・懇親会に参加して(報告)
		・会員異動

### 3. 今後に向けて



## —さらなる発展を目指して—

### 中高生への教育・課外活動支援

広島大学マスターズ広島幹事 大杉 節

マスターズ広島の重要な活動目標の一つに、中・高生への教育支援が考えられる。現在の学校教育の中で行われている教育はあまりに画一的で夢がない様に私には思える。またその画一さを補うためか憂さを晴らすためか、課外活動は体育系に偏っている。

生徒達が広く先輩が体験してきた人生体験を聞き、人生の選択肢を広げる機会を持つのは悪くない。そのセッティングするのは、地域の教育に責任を持つ教育委員会と、人生経験の深い、しかも活動時間の豊富な我々、広島大学マスターズが話し合って用意する責務があるのではないだろうか。私は残念ながら長い活動の中心が外国で行われた国際共同研究であったため、これまでどこの教育委員会とも接点がない。どなたかはきっと教育委員会に知己があるのではと期待している。いろいろと忙しい中高の先生方にかわり、我々がお世話をする中・高生対象の課外活動指導が提案できないであろうか？（コロナ禍から回復した後への期待）。学校がセットした講演会に講師として呼ばれたことはあるが、生徒との膝を交えた交流は十分できなかつた。質問時間を講演後設けたが、質問を携えてきた全ての生徒に十分な対応する時間は用意されていなかった。

少なくとも我々がお世話できるテーマの一覧を作って提案すべきではないだろうか。いらぬお節介と煙たがられる可能性は大であるが、子供たちの将来のためになるのであれば、お節介も必要であろう。ただし、これ等の活動は基本的にボランティア活動である。

NHK 文化センターの教養講座「我々を育む絶妙に調整された宇宙」は、人生のベテランが余暇を楽しむ講座であろうが、なかなか終了させていただけないほどのフアンもいらっしゃるのは率直にうれしい。人生のベテランには評判のいい「私たちが育む絶妙に調整された宇宙の話」は、中・高生にはうけないのであろうか？試してみたい気持ちはおおいにあるし、国際的に活動を始めきっかけや動機、やり方なども話してみたい。将来何かの分野で国際的に活躍してくれる人材が出てくればこんなうれしいことはない。ただし、中高生に対し注意を引き付ける話し方は訓練が必要かもしれない。

### 受験生が消えた！ マスターズ広島への期待

広島大学高大接続・入学センター 杉原 敏彦

私は本年3月末、広島大学高大接続・入学センターを定年退職した。センターには都合14年間勤務し、そのうち11年間はセンター長を仰せつかった。この高大接続・入学センターでの日々は、入試制度の研究、本学の入試制度設計、実際の入試実施に加えて学生募

集・入試広報に注力した14年間であった。その年月を振り返ってみると、受験生（主として高校生）の姿が随分と様変わりしたように思う。

着任して4、5年経った頃、例えば入試相談の会などに親が付いてくるケースが多くなったと気が付いた。親子二人が私の前に腰掛けるとすると、私の目の前の座席に座るのは多くが親の方であった。子の高校生に話しかけると、親が口を挟むというより、基本親が答える光景が珍しくなくなってきた。

ところが、さらに4、5年もすると、様子がさらに変わった。私の前に座るのは受験生の父か母。しばしば父と母。我が子である高校生はというと、曰く「子どもは忙しいので、私たちがご相談に来させていただきました」。お互い暇なあなた方と私が顔を突き合わせているということか。私はそのような入試相談会場における状況の変化を、「受験生が消えた！」と書いた。そのような変化の背景には、確かに高校生が多忙になったこともあるが、志望校決定に当たって高校教員や親の与える影響力が以前と比べ断然高くなっているという事があるように思える。<sup>(注1)</sup>

ところで、数年前愛知県のJ高校を訪ねた。話題が国立大学の入試広報に及び、進路指導部長からこういう話を聞いた。3年前東北地方のT国立大学の先生から、自分の専門領域の模擬授業をしたいのだが、関心のある生徒を集めてもらえないかという申し出を受けた。そして、その申し出は実現し、20人ばかりの生徒が集まり先生の金属工学に関する授業を聞いた。同席した高校教員の話では、話は面白く（知的刺激に満ちているという意味で）、幾人かの生徒は深く感銘を受けたようだった。そして、次の年、何が起きたかかというと、それまでJ高校からT大学へは1、2年に一人くらいの入学者だったが、その年以降毎年3～5人の合格者、入学者が続いているというのだ。

今どきの高校生は忙しくて、入試広報会場には姿は見せず、教師や親の意見に忠実に従って大学選択をしているように見える。だが、実は彼らが知りたいこと、聞きたいことに出会える機会が無かったのではないか。関心のある話題に触れることができれば、少なからぬ高校生は心を動かされ、その学問領域に惹かれ、場合によってはその話題提供者の大学の門を叩くという出来事はこれからも考えられる。

現役の大学教員は多忙である。模擬授業のオファーを伝えても、講師はローテーションで決まり、ノルマをこなすかのよう。とすると、高校生はやはり消えてしまっても不思議ではない。広島大学マスターズ広島の先生方が、学問の真髄と学ぶ悦びを高校生に語っておられる・・・そういう姿を思い浮かべるこの頃である。

(注1) 高大接続・入学センターでは、毎年広島大学入学者全員を対象として入学の動機等に関するアンケート調査を重ねている。進学先決定に当たって「最も影響を受けた他者」は誰かという設問に対しては、高校教員26%、親20%となっている。(高大接続・入学センター、平成30年度「入学者に関する調査」から)

## 生涯学習への思い

広島大学マスターズ広島幹事 於保 幸正

カルチャースクールでは多くの人々が学び、スポーツセンターでは多数の女性が体を鍛え、太田川に沿う土手では老若男女が散歩を楽しんでいる姿を見ることができます。その様子を見ると、我々マスターズは学びつづけたいと思っていられる人々の生涯学習にどの様に寄与ができるのであろうかと考えさせられます。その考えの一端を文章化してみました。皆さんのご賛同を得ることは難しいかと思いつつ、述べさせていただきます。

そもそも、生涯学習とは何なのでしょう。私達はどのようにして学び続けるのでしょうか。学んだことが社会の役に立つこともあるだろうし、役に立たないこともあるでしょう。その様なこととは関係なく、人々は学び続けている様にみえます。何故学び続けるのでしょうか。その答えの一つとして、学ぶ過程で「あーそうだったのか」と気づく楽しさがあるのかも知れません。気づくことで頭の中でモヤモヤしていたものがすっきりし、気分が良くなります。少なくとも何らかの楽しさがないと学び続けることはできないかと思えます。マスターズの会員の皆さんは、学びの苦しさもさることながら、その楽しさも十分に理解している方々だと思います。この学びの楽しさを、多くの人々に味わってもらえないだろうか、そこから生涯学習に寄与できないかと思えます。

大学教育の中で、学生が達成感を持って学ぶ方法の一つにプロジェクト的な研究があります。数人の学生が集まり、自分達の考えで研究を進めるものです。そこでは、知識の切り売りが行なわれることなく、自分達で深く調べ、学び、次のステップでは何をしなければならぬか、計画を練る作業が含まれています。プロジェクト的な研究での教員の役割は、学生達とともに走る伴走者であり、少しの助言を行う介護者です。教員は専門分野をもちそれについて研究を行った経験から、専門とは離れた分野についても研究の進め方を理解しています。伴走者の仕事は研究方法を知っているからこそできる仕事だと思います。

マスターズが寄与できる場としては、どんな場面があるのでしょうか。例えば初等教育では、総合的な学習の時間があり、初等教育に携わっている先生方に学習のテーマと進め方に関する提案を行うことができます。この総合的な学習の時間は、地域との連携を深める場になる可能性もあります。それは、生徒の活動に地域の人々が加わり、一緒に学習を進めることもでき、コミュニティとしての一体感を作り出すこともできるからです。学びのテーマとすれば、地域の文化や自然史に関わるものも想定できるでしょう。テーマは無限に存在している様に思えます。

この様な活動に参加するためには、マスターズの会員が専門の分野に捉われないことが必要です。柔軟な考えをもてば、将来は様々な活動の場が待っていると思います。問題は、計画性と継続的な取り組みです。特に継続的に生涯教育に関与することはなかなか困難なように思えます。何らかの組織的な取り組みが必要だと思います。

## マスターズ広島の活動に参画して

広島大学マスターズ広島幹事 圓山 裕

2019年3月に定年退職し、その4月に入会、5月に開催された総会に初参加して、若手の幹事として広報担当を仰せつかりました。退職を前にして読んだ中公新書「定年後」(楠木新著, 2017年)に触発されて、退職後も社会の役に立ちたいと考えていました。従って、マスターズへの入会に躊躇はなかったのですが、どのような活動をしている団体なのか、詳細を知りませんでした。入会の案内を読んで、広島大学の平和教育への貢献もあることを知り、教養教育の概説科目を担当していた経験から、私にも担当できそうだと思います。

2019年度前期に平和科目「平和と人間-D」のオムニバス授業のひとつを担当しました。それは東千田キャンパスで開講されている夜間主コースの授業で、法学部と経済学部の社会人学生が勤務を終えてからの授業でした。私にとっては、初めて経験する夜間主コースの授業でしたし、科学・技術に関する理系の内容を文系の学生にどの様に講義するのが分かり易いのか思案する点が多くありました。講義の題目を「原子力と再生可能エネルギー」と定めて、現代物理学の成果の「光と影」について地球環境保全の観点から議論することとし、また、経済優先の下での貧困、格差、不平等などの課題に対して、社会的共通資本の拡充を通して平和の確立を考察する構成としました。これは国連が提唱しているSDGs「持続可能な開発目標」に通底するもので、広島大学の理念「平和を希求する精神」に通じるものだと考えました。

平和科目には、文系と理系の融合の観点からの内容が期待されると思います。マスターズ広島の私達が専門分野を越えて講義することの意義はそこに在ると考えます。私達自身が異分野融合を積極的に意識することも必要かと思います。この点で、隠岐さや香氏(総合科学部の元准教授、現在、名古屋大学教授)の著書「文系と理系はなぜ分かれたのか」(星海社新書、2018年)は大変参考になりました。

新型コロナウイルスによる緊急事態への対応のために、2020年度の講義がオンライン授業に移行されます。パンデミックの下での社会活動における不確実性が教育の場にも深刻な影響を及ぼしています。ポスト・パンデミック社会では、科学・技術に加えて人間と社会に関する人文智が不可欠だと思われれます。

## 図書館の運営に携わって

広島大学マスターズ広島幹事 寺本 康俊

私は、広島大学在職中、2015年4月から4年間、図書館長を拝命して、広島大学の中央、東、西、霞、東千田の学内5館の図書館を、優秀な図書館職員の協力を得て、運営してきました。図書館は、大学の「知の拠点」であり、その使命感を持って、業務に取り組みました。

また、広島大学は中・四国地方の基幹大学ですので、広島大学図書館は全国規模の国立大学図書館協会理事館、中国四国地区国立大学図書館協議会地区代表館、広島県大学図書館協会代表幹事館として、日本全体や地域の図書館の業務や課題などを検討してきました。

広島大学は、蔵書数約350万冊、年間利用者数約120万人、電子ジャーナルのタイトル数が2万件など、日本でも有数の国立大学図書館です。特色のあるコレクションとして、江戸時代の往来物、明治以降の戦前・戦後の教科書を収集した教科書コレクション、森戸文庫、斯波文庫、平和学コレクションなどがあり、特に教科書コレクションは、文科省の支援を得て、画像をデータベース化し、国内外の研究者や多くの利用者に提供しています。

また、留学生の増加に伴い、ライティングセンターでは、留学生や日本人学生に、日本語や英語による学術論文の作成方法などを指導し、好評を博しています。

現在、国内外の図書館、特に大学図書館にとっての大きな課題は、特に理系の研究者にとって必須となっている電子ジャーナルの価格高騰への対応です。この問題に対しては、欧米の大学や日本の大学でも購読費の負担が限界に近づきつつあり、喫緊の課題となっています。日本でも、国公私立大学などの約550館が登録しているJUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）が、BigDealといわれる包括的な販売契約を行う大手の学術出版社と交渉し、複数年契約などの工夫をして少しでも安価に購読できるために価格交渉を行っていますが、論文数の増加などの理由により年数%の価格上昇の傾向は避けられなくなっています。さらに、ハイブリッドジャーナルといわれるタイプの学術雑誌では、その購読料と研究者の論文投稿料との2重払いの問題があり、その解消などに取り組んでいます。

私も、国立大学図書館協会の総会、研究集会、シンポジウムに於いて、そうした取り組みの重要性と具体的な対策などを唱え、また、この関係の問題を担当してまいりました。

そして、もう一つの大きな課題は、昨今のインターネットの普及の状況により、e-bookといわれる電子書籍の普及です。これは、大学から帰宅した後の在宅学習などをする際にも複数の学生が読めるというメリットがあります。とりわけ、現在、新型コロナウイルス感染症への対策のために学生が在宅学習をする際などに有用な方法と考えられます。書店の協力を得て、購読トライアルなどを行い、利用者への広報、閲覧者数の多いe-bookの購入などを進めていきましたが、本格的な普及はこれからです。

今後とも、広島大学図書館を見守り、支えていただきましたら、誠に幸甚です。

## 連携と平和

広島大学マスターズ広島会員 久保田 清

「平和」は、親子、親族内での「連携」を、国内外に向けて、老若男女、出生地、民族、言語、宗教、思想などの異なる方々に向けて、拡張することで達成できる。人類は、原子力兵器、生物兵器、化学兵器を持てるまでになってきている。他者、他社、他国などの方々の立場を理解できない方々の抗争を防ぐ連携をして欲しい。

また、人類は、自然界にある食糧、エネルギー資源、水資源などの恩恵を受けて生活できている。自然界と好ましい連携をして欲しい。

自然界で起こる地震、津波、台風、豪雨、火山爆発、落雷、竜巻など自然災害は、皆無にできないが、建造物、沿岸河川網、交通通信網、電力上下水道網などを、連携できるようにしておく、自然災害の被害拡大（人的災害）を抑制できる。

超過密過疎化、建造物の超高層化、交通網の超過密化など、大都市の超拡大化が、阪神淡路大震災、新型コロナウイルス感染症災害など自然災害が発生したときに、被害拡大の原因になっている。

食糧、資源生産地との連携が容易なところに、分散型の中核都市を構築して欲しい。1次産業、2次産業、3次産業の連携、異業種産業の連携、産官学の連携などで、被害拡大を抑制できる。事前対策すると事後処理を軽減できる。

反応工学は、反応器内で起こる各種現象に対して、平衡論、収支論、移動速度論、反応（変換）速度論を駆使する研究分野である。その結果が、最適な反応器の設計、操作条件の設定に使われる。

地球は、大きな反応器である。反応工学を駆使して、戦争など人的災害を皆無にして欲しい。自然災害の被害拡大を抑制して欲しい。「平和」を構築できる、最適の物質、エネルギー、資金、人材などの「連携」の要望提供が可能な時代になってきていると思う。

（参 考）

1. 「安心安全な平和な社会に向けて」：広島大学生物生産学部同窓会誌，緑翠会報，36巻，20（2013）。
2. 「食糧生産地の次世代支援を要望」：広島大学工学同窓会誌，136号，88-92（2013）。
3. 「戦後50年回想と地球環境にやさしい食糧資源生産と食品製造」：  
New Food Industry, 37(1), 6-9 (1995).

## 現況「反応工学と生活」

広島大学マスターズ広島会員 久保田 清

人の字は、一本の棒を、もう一本の棒が支えて構成している。インフルエンザ感染で、数日間動けなくなったとき、ぎっくり腰、熱中症で、数時間動けなくなったとき、妻が支

えてくれた。その時の状況を思い出しながら行動して、再発させないでいる。最近、妻と買物などに行く途中で、「何処に行っているの」と、何度も聞くようになってきた。支える棒になりたい。

原爆廃跡の中で、お手伝いして知恵を身につけ、化学工学を学んだ。次いで、反応工学、食品反応工学と、他の分野と工学を連携させた。工の字は、二本の横棒と縦棒で構成している。連結させている縦棒が工学である。下棒を、基礎、人間、知識、過去などとする、上棒が、応用、生活、知恵、未来などとなる。

反応工学は、反応器内で起こる各種現象に対して、平衡論、収支論、移動速度論、反応速度論を駆使する研究分野である。最適の反応器の設計、操作条件を設定する。

人体は、神経筋肉系、血流抗体系、消化排出系などで構築されている。物理的、化学的、生物学的な複雑な反応（入力を出力に変換）を起こす生活をしている微細な反応器である。

「反応工学」を回想しながら、最適な衣食住を選択して、社会的な「生活」を試行錯誤している。起伏の繰り返しが多くなり、翌日伸ばしをしている。晴耕雨読して、体力低下、認知症進行の予防をしている。脳梗塞、心不全などにならないように、妻より先立たないようにしたい。

（参 考）

1. 「戦後復興末期の回想」：広島工業会誌, 123 号, 64-69 (2001).
2. 「子供時代の手伝いと工業と人生論」：広島工業会誌, 132 号, 74-78 (2009).
3. 「食品工業基礎の研究教育からの随想、その 1、その 2」：食品工業, **56**(14), 77-83 (2013) ; **56**(16), 83-88 (2013).

## 編集後記

広島大学マスターズ広島・会報「創設 10 周年記念特集号」をお届けします。本特集号は、本来は 10 周年記念シンポジウム、記念総会とのセットとして企画されたものでしたが、コロナ禍の中で残念ながらシンポジウム、総会は延期または中止を余儀なくされ、さしあたりこの「会報特集号」のみが、私ども広島大学マスターズ広島の創立以来 10 年間の活動を振り返るものになりました。まずは、お忙しい中で、原稿をお寄せいただきました皆さま方に、心よりお礼申し上げますとともに、刊行が遅れましたことをお詫びいたします。

いただきました原稿を読ませていただきますと、本会には多種多様な職務・専門を経験したメンバーが揃っており、本会が実に多様な活動を展開してきたことに、改めて気づかされます。そうした多様性が、本会の活動のエネルギーを支える重要な要素であったといえるのでしょうか。いずれにせよ、退職した私どもが、人生の第二の活動を展開し、社会との接触を保つ場として、本会の役割は重要だと考えております。また、本会の活動が会員外の方々からのご支援・ご協力によって成り立っていることも、思い知らされました。感謝申し上げます。

そうした私どもの活動がどのような社会的意義を持ってきたのか、また今後も持ち続けるのであろうかという点は、これからも考え続けねばならない問題ですが、ともあれ、10 周年という区切りを迎えた今、改めてこれまでを振り返り、今後の活動に生かして行く所存です。皆さま方の一層のご支援を切にお願いいたします。

広島大学マスターズ広島

会報「創設 10 周年記念特集号」編集委員会

編集委員（アイウエオ順）

井上研二 植木研介 植村泰夫 大杉 節

於保幸正 鈴木盛久 圓山 裕 渡邊敏正



広島大学マスタース広島  
会報「創設 10 周年記念特集号」

発行：広島大学マスタース広島  
「広島大学マスタース広島」事務局  
〒730-0053 広島市中区東千田町 1 丁目 1 番 89 号  
広島大学東千田地区支援室気付  
E-mail : [masters2@hiroshima-u.ac.jp](mailto:masters2@hiroshima-u.ac.jp)  
URL : <https://home.hiroshima-u.ac.jp/masters2/>

発行日：2020 年（令和 2 年）11 月  
印刷：三景印刷株式会社 <https://print03.jp/>  
〒629-2263 京都府与謝郡与謝野町字弓木 1865

表紙の写真：第 10 回総会の会場風景（2019 年 5 月 25 日撮影）